

NEC Express5800シリーズ Express5800/51Da-22W

2

ハードウェア編

本装置のハードウェアについて説明します。

各部の名称と機能 (72ページ)

本装置の各部の名称と機能についてパーツ単位に説明しています。

設置と接続 (78ページ)

本装置の設置にふさわしい場所や背面のコネクタへの接続について説明しています。

基本的な操作 (85ページ)

電源のONやOFFの方法、および光ディスクのセット方法などについて説明しています。

BIOSのセットアップ (103ページ)

専用のユーティリティを使ったBIOSの設定方法について説明しています。

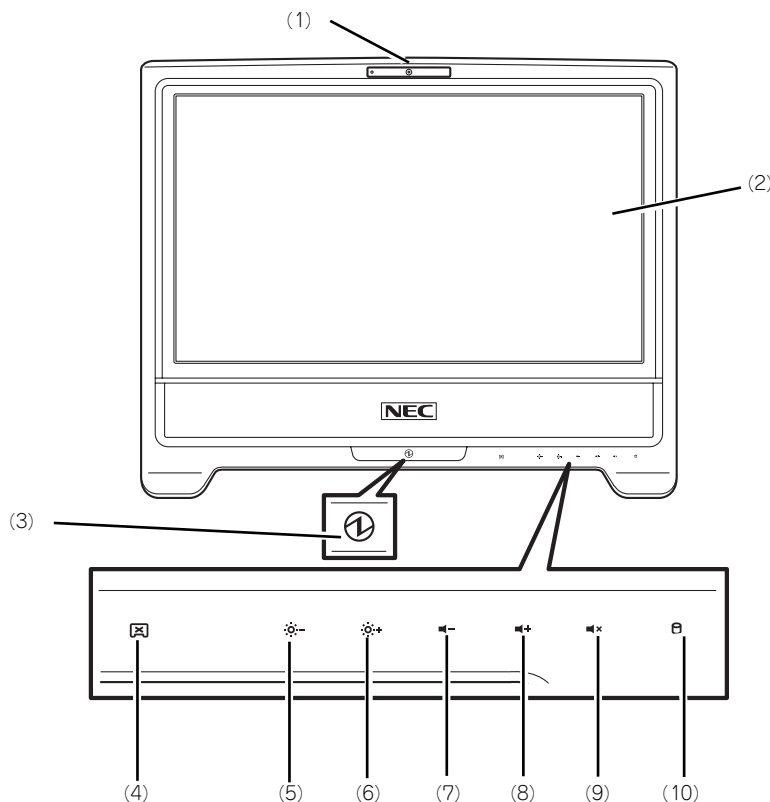
リセットとクリア (133ページ)

本装置をリセットする方法と内部メモリ (CMOS) のクリア方法について説明します。

各部の名称と機能

本装置の各部の名称を次に示します。

装置前面



(1) Webカメラ

マイク付きWebカメラ。

(2) 液晶パネル

タッチパネルモデルのみタッチパネル機能付き。

(3) POWER/SLEEPランプ（緑色/橙色）

電源をONにすると緑色に点灯する（→76ページ）。省電力モード中は橙色に点灯する。

(4) 画面消灯ボタン

このボタンを押すと、画面が消灯される。

(5) 明るさ調整ボタン(暗く)

このボタンを押すたびに、画面が暗くなる。*1

(6) 明るさ調整ボタン(明るく)

このボタンを押すたびに、画面が明るくなる。*1

(7) 音量調整ボタン(小さく)

このボタンを押すたびに、音量が小さくなる。*1

(8) 音量調整ボタン(大きく)

このボタンを押すたびに音量が大きくなる。*1

(9) 音量調整ボタン(ミュート)

このボタンを押すと、消音する。

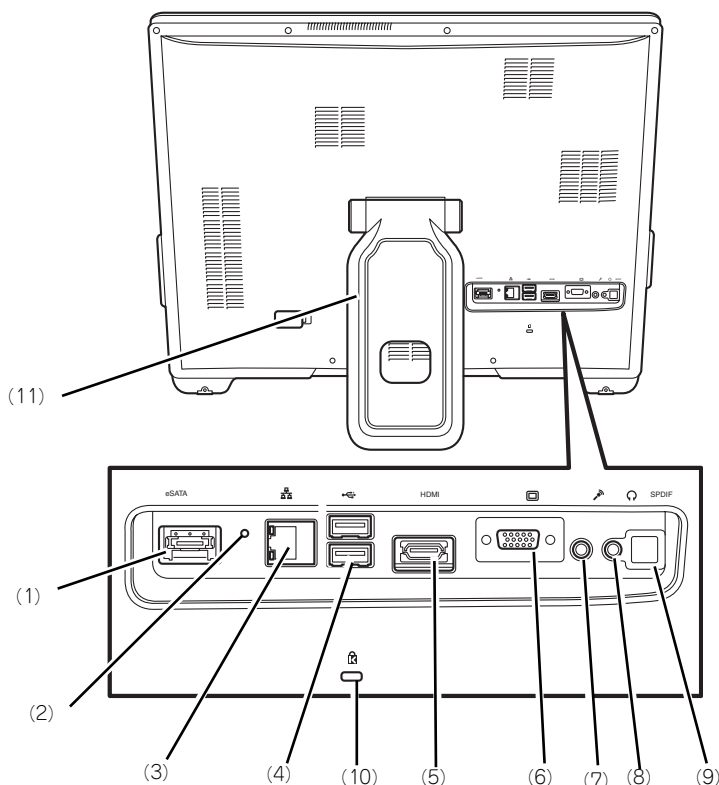
(10) DISKアクセスランプ（緑色/橙色）

ハードディスクドライブのアクセス時に緑色に点灯する。

*1 押し続けたままでは機能しません。

*2 (4) 画面消灯ボタンと (5) 明るさ調整ボタンの間を押すとランプが点灯しますが、機能はありません。ランプが点灯しても、動作上問題ありません。

本体背面



(1) eSATAコネクタ

eSATAデバイスを接続する。ホットプラグ未対応のため、本装置の電源を入れる前にeSATAデバイスの電源を入れて接続してください。

(2) DUMPスイッチ

障害発生時にメモリの内容をダンプし、採取する。

(3) LANコネクタ (ネットワークポート)

(1) 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T コネクタ

LAN上のネットワークシステムと接続する (→82ページ)。

(2) 1000/100/10ランブ

LANポートの転送速度を示すランプ (→77ページ)。

(3) LINK/ACTランプ

LANポートのアクセス状態を示すランプ (→77ページ)。

(4) USBコネクタ (2ポート)

USBインタフェースを持つ装置と接続する (→82ページ)。対応するソフトウェア (ドライバ) が必要。

(5) HDMIコネクタ

HDMI対応機器を接続する (出力のみ)。

(6) モニタコネクタ

ディスプレイ装置を接続する (→82ページ)。

(7) マイク端子

マイクを接続する。

(8) ヘッドフォン端子

ヘッドフォンを接続する (→81ページ)。

(9) SPDIFコネクタ

SPDIF対応機器を接続する (出力のみ)。

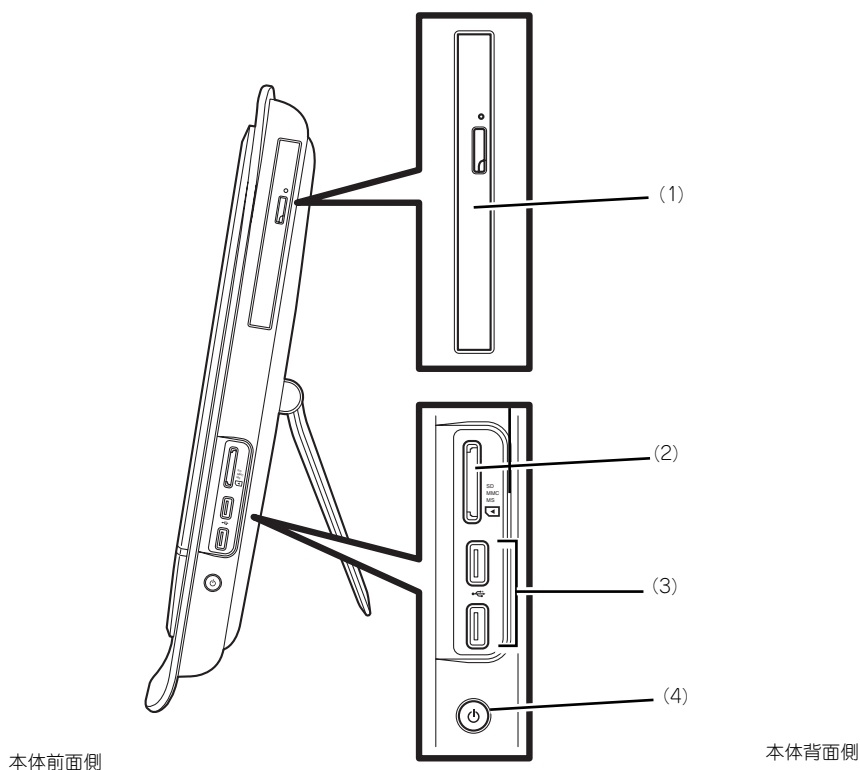
(10) セキュリティケーブル接続用スロット

盗難防止用器具を取り付けることで、盗難を防止することができる。

(11) スタンド

本装置を設置するとき使用する (→79ページ)。

装置側面（右側面）



(1) 光ディスクドライブ

セットしたディスクのデータの読み出し（または書き込み）を行う（→89ページ）。

● DVD Super MULTIドライブ

ドライブには、トレイをイジェクトするためのトレイイジェクトボタン、ディスクへのアクセス状態を表示するアクセスランプ（アクセス中はアンバー色に点灯）、トレイを強制的にイジェクトさせるための強制イジェクトホールが装備されている。

(2) メディアスロット（1ポート）

メディアはSD/SDHC/MS//MS-pro/MMCが使用可能。

(3) USBコネクタ（2ポート）

USBインターフェースを持つ装置と接続する（→81ページ）。対応するソフトウェア（ドライバ）が必要。

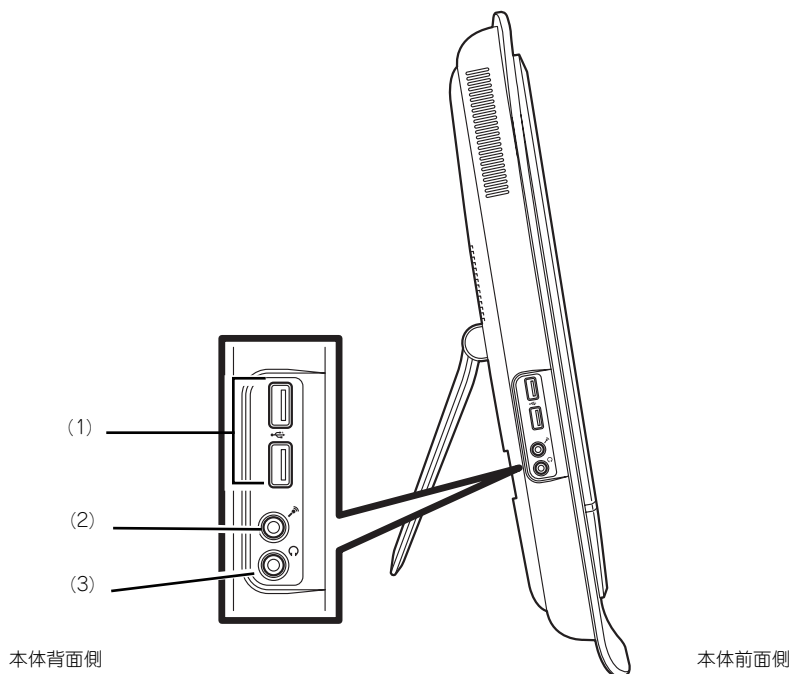
(4) POWER/SLEEPスイッチ

本装置の電源をON/OFFするスイッチ。一度押すと装置前面のPOWER/SLEEPランプが緑色に点灯し、ONの状態になる。もう一度押すとOFFの状態になる（→85ページ）。

省電力モード（スリープ）に切り替える機能を持たせることができる。

設定後、一度押すと装置前面のPOWER/SLEEPランプが橙色に点滅し、省電力モードになる。もう一度押すと、通常の状態になる。

装置側面（左側面）



(1) USBコネクタ（2ポート）

USBインターフェイスを持つ装置と接続する（→81ページ）。対応するソフトウェア（ドライバ）が必要。

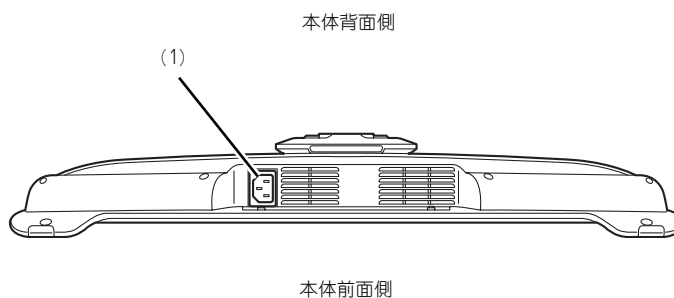
(2) マイク端子

マイクを接続する。

(3) ヘッドフォン端子

ヘッドフォンを接続する（→81ページ）。

装置底面

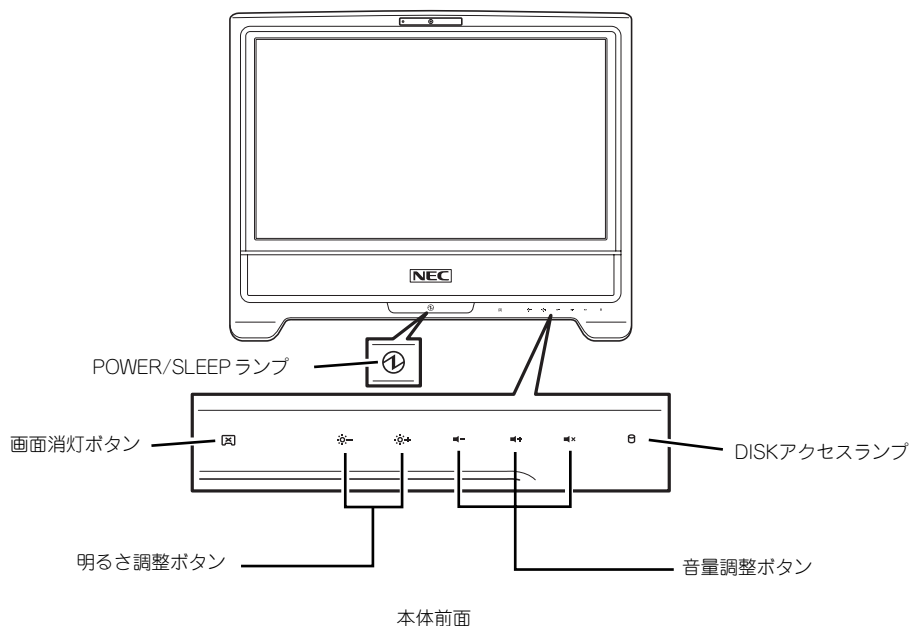


(1) 電源コネクタ

添付の電源コードを接続する（→84ページ）。

ランプ表示

本装置のランプの表示とその意味は次のとおりです。



POWER/SLEEPランプ

本装置の電源がONの間、ランプが緑色に点灯しています。電源が本装置に供給されていないとPOWER/SLEEPランプが消灯します。

省電力モードに切りかわると橙色に点滅します。

画面消灯ボタン

画面を消す場合は、このボタンを押します。
画面が消灯しているときに橙色に点灯します。

明るさ調整ボタン

明るさを調整したい場合は、このボタンを押します。

[+]ボタンを押すと、押すたびに画面が明るくなり、[-]ボタンを押すと、押すたびに画面が暗くなります。

押すたびに青色に点灯します。

音量調整ボタン

音量を調整したい場合は、このボタンを押します。

[+]ボタンを押すと、押すたびに音量が大きくなり、[-]ボタンを押すと、押すたびに音量が小さくなります。

押すたびに青色に点灯します。

また、[X]ボタン（ミュート）を押すと消音します。消音の時には橙色に点灯します。

アクセスランプ

ハードディスクドライブのアクセスランプは、ハードディスクドライブにアクセスしているときに緑色に点灯します。

LINK/ACTランプ

本体標準装備のネットワークポートの状態を表示します。本装置とハブに電力が供給されていて、かつ正常に接続されている間、橙色に点灯します（LINK）。ネットワークポートが送受信を行っているときに橙色に点滅します（ACT）。

LINK状態なのにランプが点灯しない場合は、ネットワークケーブルの状態やケーブルの接続状態を確認してください。それでもランプが点灯しない場合は、ネットワーク（LAN）コントローラが故障している場合があります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

1000/100/10ランプ

標準装備のLANポートは、1000BASE-T（1Gbps）と100BASE-TX（100Mbps）、10BASE-T（10Mbps）をサポートしています。

このランプは、ネットワークポートの通信モードがどのネットワークインタフェースで動作されているかを示します。橙色に点灯しているときは1000BASE-Tで動作していることを、緑色に点灯しているときは100BASE-TX、消灯しているときは10BASE-Tで動作していることを示します。

設置と接続

本装置の設置と接続について説明します。

設置

注意

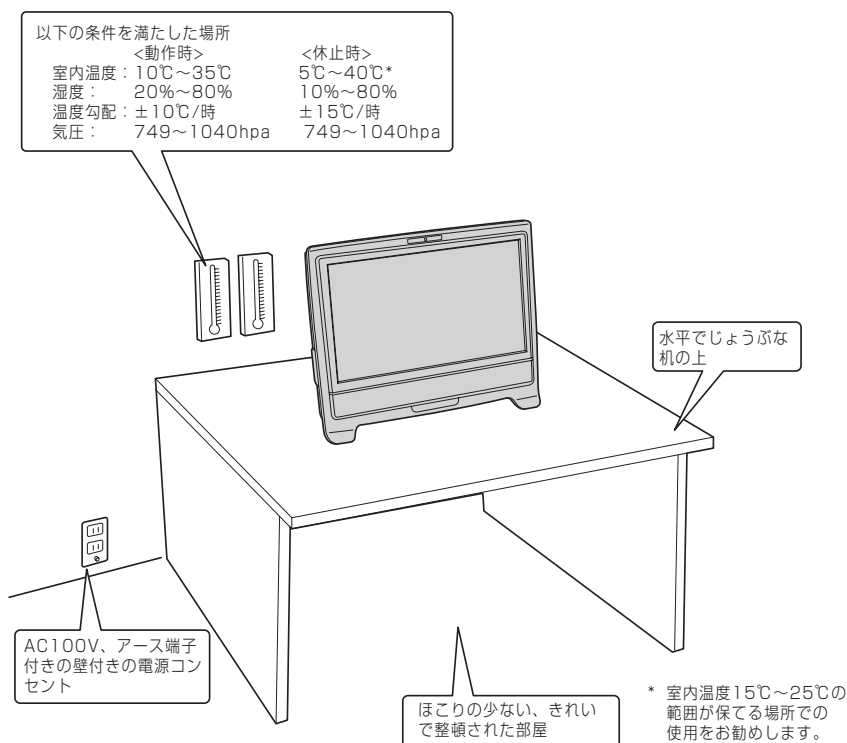


装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

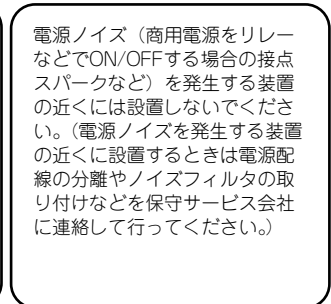
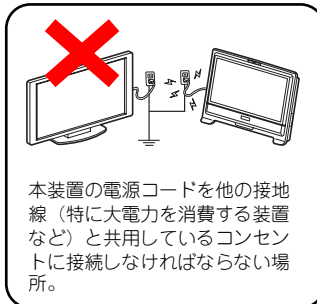
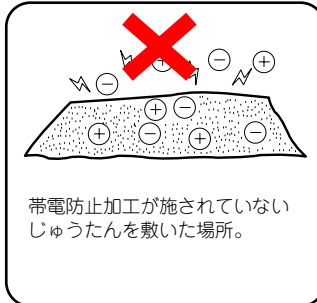
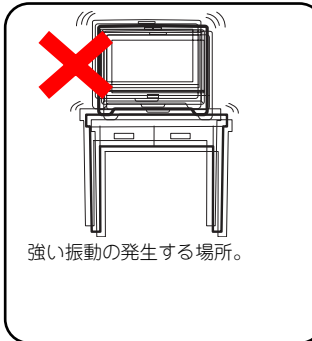
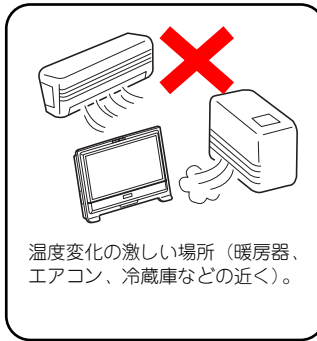
- 指定以外の場所に設置・保管しない
- 腐食性ガスの存在する環境で使用または保管しない
- スタンドを閉じたまま使用しない

本装置の設置にふさわしい場所は次のとおりです。

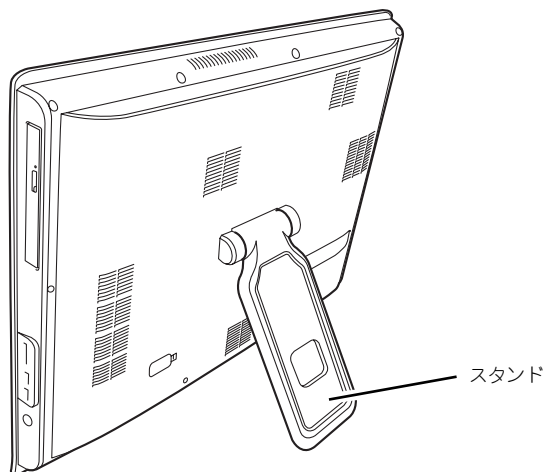
設置場所が決まったら、設置場所にゆっくりと静かに置いてください。



次ページに示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所に本装置を設置すると、誤動作の原因となります。



スタンドを立てる場合は、本体が倒れないように注意してスタンドをしっかりと開いてください。



接 続

本装置と周辺装置を接続します。

本装置の背面には、さまざまな周辺装置と接続できるコネクタが用意されています。次の図は本装置が標準の状態で接続できる周辺機器とそのコネクタの位置を示します。周辺装置を接続してから添付の電源コードを本装置に接続し、電源コードをコンセントにつなげます。

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- めれた手で電源プラグを持たない
- アース線をガス管につながない

注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外のコンセントに差し込まない
- たこ足配線にしない
- 中途半端に差し込まない
- 指定以外の電源コードを使わない
- 電源プラグを差し込んだままアース線の取り付けや取り外しはしない
- アース線を水道管につながない
- アース線を電話専用のアース端子に接続しない
- 電源プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない
- 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない

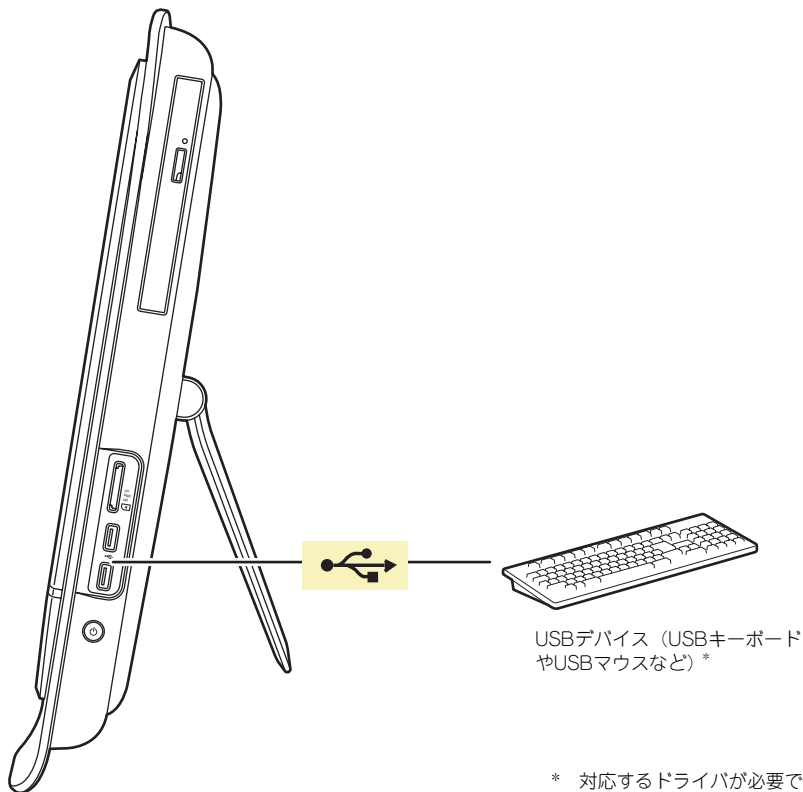
インタフェースケーブル

インタフェースケーブルを接続してからアース線と電源コードを接続します。

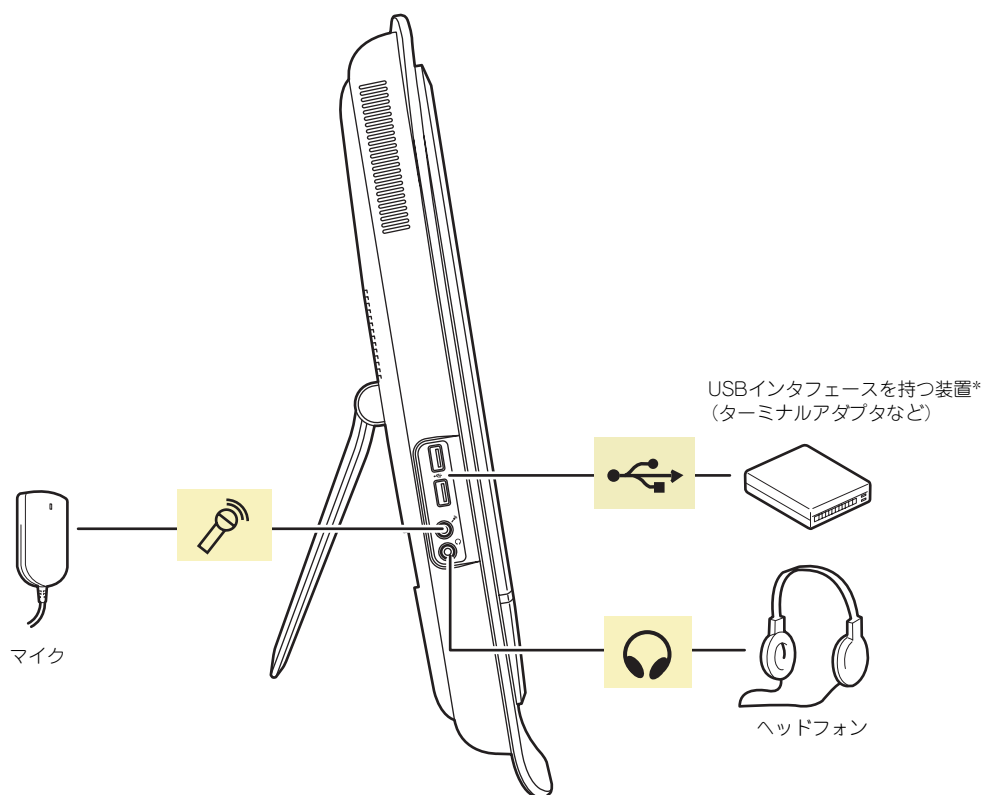


- 本装置および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。
- 弊社以外（サードパーティ）の周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置が本装置で使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中には本装置で使用できないものがあります。
- USBコネクタにUSB機器を接続する場合は、シールド付きケーブルを使用してください。
- USBケーブル、LANケーブルを接続する場合は、シールド付きケーブルを使用してください。

本体右側面

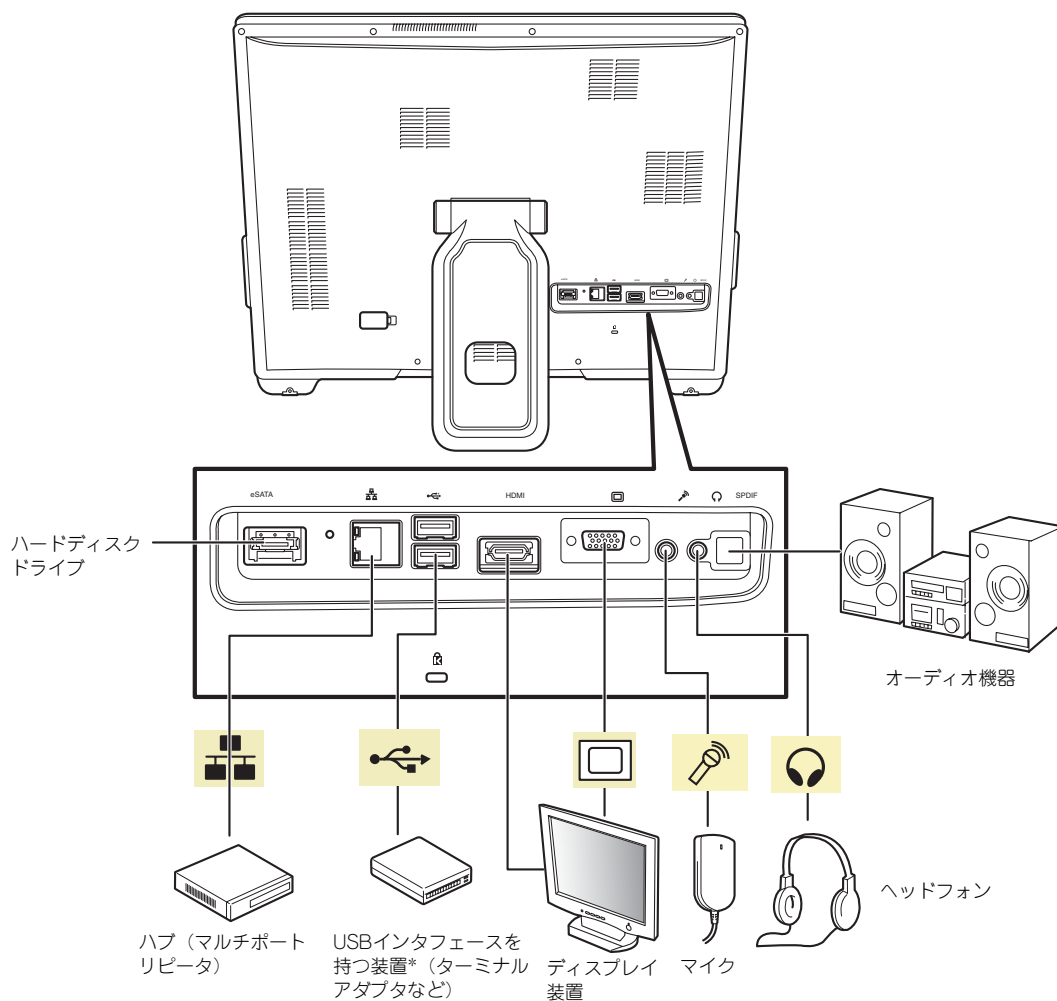


本体左側面



* 対応するドライバが必要です。

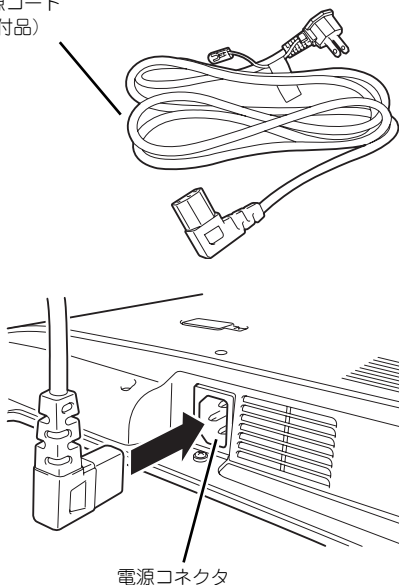
本体背面



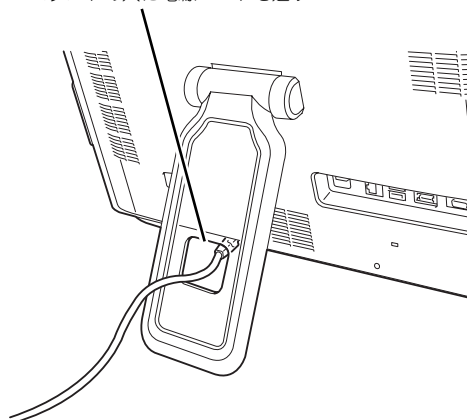
電源コード

添付の電源コードを接続します。

電源コード
(添付品)



スタンドの穴に電源コードを通す



最後にAC100V、アース端子付きの壁付き電源コンセントへ接続する。



電源コードを接続すると自動的に電源がONになり、2～3秒後にOFFになりますが、これは装置の機能の一部で正常な動作です。故障ではありません。



- 本装置の電源コードを無停電電源装置（UPS）に接続する場合は、UPSの背面にある出力コンセントに接続します。詳しくはUPSに添付の説明書をご覧ください。
- 本装置の電源コードを接続したUPSによって、UPSからの電源供給と本装置のON/OFFを連動（リンク）させるためにBIOSの設定変更が必要となる場合があります。
BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」－「Power Management Setup」－「Restore on AC Power Loss」を選択し、適切なパラメータ値に変更してください。
- UPSに接続する際は、NECが指定する別売の電源コード（並行2極アース付き電源コード）を購入して接続してください。

⚠ 注意



購入した電源コードを他の装置や用途に使用しない

購入した電源コードは本装置に接続し、使用することを目的として設計され、その安全性が確認されているものです。決して他の装置や用途に使用しないでください。火災や感電の原因となるおそれがあります。

基本的な操作

本装置の基本的な操作の方法について説明します。

電源のON

本装置の電源は右側面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押すとONの状態になります。
次の順序で電源をONにします。



電源をOFFにした後、再度電源をONにする時には、10秒ほど経ってから電源をONにしてください。

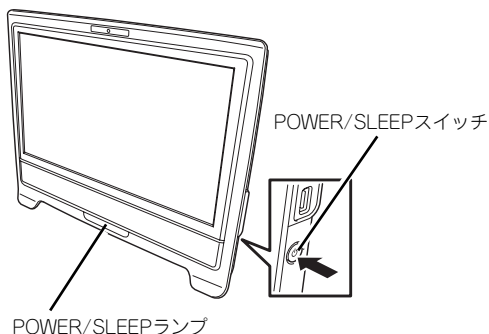
1. 本装置に接続している周辺機器の電源をONにする。



無停電電源装置（UPS）などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。

2. 本装置右側面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押す。

POWER/SLEEPランプが緑色に点灯し、しばらくするとディスプレイ装置の画面には「NEC」ロゴが表示されます。



「NEC」ロゴを表示している間、本装置は自己診断プログラム（POST）を実行して本装置自身の診断をしています。詳しくはこの後の「POSTのチェック」をご覧ください。POSTを完了するとOSが起動します。ログオン画面でユーザー名とパスワードを入力すれば使用できる状態になります。



POST中に異常が見つかったらPOSTを中断し、エラーメッセージを表示します。ディスプレイの表示をメモして保守サービス会社に連絡してください。アラーム表示は保守を行うときに有用な情報となります。

POSTのチェック

POST (Power On Self-Test) は、本装置のマザーボード内に記録されている自己診断機能です。

POSTは本装置の電源をONにすると自動的に実行され、マザーボード、メモリモジュール、CPUモジュール、キーボード、マウスなどをチェックします。また、POSTの実行中に各種のBIOSセットアップユーティリティの起動メッセージなども表示します。

本装置の出荷時の設定では、POSTを実行している間、ディスプレイ装置にはPOSTの実行内容が表示されます。



- POST時、「NEC」ロゴが表示される場合は、「Advanced BIOS Setup」にある「Quiet Boot」の設定を「Enabled」に切り替えてください。
- POSTによる完全な診断をする必要がある場合は、「Advanced BIOS Setup」にある「Quick Boot」の設定を「Disabled」に切り替えてください。

POSTの実行内容は常に確認する必要はありません。次の場合にPOST中に表示されるメッセージを確認してください。

- 本装置の導入時
- 「故障かな？」と思ったとき
- 電源ONからOSの起動の間に何度もピープ音がしたとき
- ディスプレイ装置になんらかのエラーメッセージが表示されたとき

次にPOSTで実行される内容を順を追って説明します。



POSTの実行中は、不用意なキー入力やマウスの操作をしないようにしてください。

1. 電源ON後、POSTが起動し、メモリチェックを始めます。ディスプレイ装置の画面左上に基本メモリと拡張メモリのサイズをカウントしているメッセージが表示されます。本装置に搭載されているメモリの量によっては、メモリチェックが完了するまでに数分かかる場合もあります。同様に再起動（リブート）した場合など、画面に表示をするのに約1分程の時間がかかる場合があります。
2. メモリチェックを終了すると、いくつかのメッセージが表示されます。これらは搭載しているCPUや接続しているキーボード、マウスなどを検出したことを知らせるメッセージです。
3. しばらくすると、本装置のマザーボードにあるBIOSセットアップユーティリティ「SETUP」の起動を促すメッセージが画面中に表示されます。

本装置を使用する環境にあった設定に変更するときに起動してください。エラーメッセージを伴った上記のメッセージが表示された場合を除き、通常では特に起動して設定を変更する必要はありません（そのまま何も入力せずにいると数秒後にPOSTを自動的に続けます）。

SETUPを起動するときは、メッセージが表示されている間に<F2>キーを押します。設定方法やパラメータの機能については、105ページを参照してください。

SETUPを終了すると、本装置は自動的にもう一度はじめからPOSTを実行します。

4. BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」でパスワードの設定をすると、POST中にSETUP MENU起動するとパスワードを入力する画面が表示されます。パスワードの入力は、3回まで行えます。3回とも入力を誤ると本装置を起動できなくなります。この場合は、本装置の電源をOFFにしてから、約10秒ほど時間をあけてONにして本装置を起動し直してください。



OSをインストールするまではパスワードを設定しないでください。

5. POSTを終了するとOSを起動します。

POST中にエラーを検出するとディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示します。



保守サービス会社に連絡するときはディスプレイの表示をメモしておいてください。アラーム表示は保守を行うときに有用な情報となります。

電源のOFF

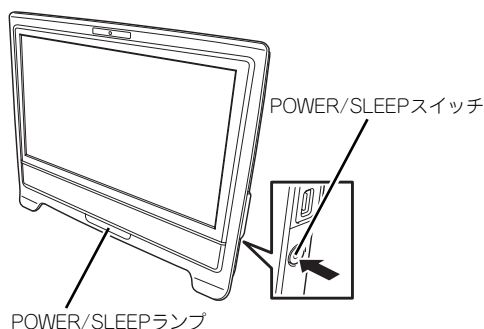
次の順序で電源をOFFにします。本装置の電源コードをUPSに接続している場合は、UPSに添付の説明書を参照するか、UPSを制御しているアプリケーションの説明書を参照してください。

1. OSのシャットダウンをする。
2. 本装置右側面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押す。
POWER/SLEEPランプが消灯します。
3. 周辺機器の電源をOFFにする。

省電力モードの起動

ACPIモードに対応したOSを使用している場合、電力をほとんど使用しない状態(スタンバイ状態)にすることができます。

OSのシャットダウンメニューからスタンバイを選択するか、POWER/SLEEPスイッチの設定を電源オフからスタンバイに変更した場合はPOWER/SLEEPスイッチを押すとスタンバイ状態になります(POWER/SLEEPランプが緑色から橙色に点滅します)。スタンバイ状態になってもメモリの内容やそれまでの作業の状態は保持されています。POWER/SLEEPスイッチをもう一度押すとスタンバイ状態は解除されます。



重要 省電力モードへの移行、または省電力モード中にシステムを変更しないでください。省電力モードから復帰する際に元の状態に復帰できない場合があります。



省電力モードへの移行、または省電力モードからの復帰方法については、OSの設定によって異なります。また、省電力モード中の動作レベルは、OSの設定に依存します。

光ディスクドライブ

本装置右側面に光ディスクドライブが搭載されています。本装置に標準で装備されている光ディスクドライブには以下のタイプがあります。

- DVD Super MULTIドライブ

多様な光ディスクの読みとり、書き込みを行うための装置です。

⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 光ディスクドライブのトレイを引き出したまま放置しない

使用上の注意

本装置を使用するときに注意していただきたいことを次に示します。これらの注意を無視して装置を使用した場合、本装置または資産（データやその他の装置）が破壊されるおそれがありますので必ず守ってください。



DVD-RAMを代表とする光ディスクは簡易バックアップメディアであり、重要なデータのバックアップにはより信頼性の高いテープ装置等をお勧めします。なお、本書に記載されている推奨ディスク以外を使用した場合は、動作不正が発生するおそれがあります。

記録データの補償について

本製品を使用して光ディスクに記録されたデータの補償および光ディスクの損失につきましては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、ご了承ください。

使用するディスクについて

本製品で使用するディスクは、下記のメーカーのもの（ただし、プリンタブルディスク以外）をお勧めします。

<CD-Rディスク>

太陽誘電製

<CD-RWディスク>

三菱化学メディア製

<DVD-RAMディスク>

パナソニック製または日立マクセル製

<DVD-Rディスク>

パナソニック製または太陽誘電製

<DVD-RWディスク>

三菱化学メディア製または日本ビクター製

<DVD+Rディスク>

三菱化学メディア製またはリコー製

<DVD+RWディスク>

三菱化学メディア製

<DVD±R DL（2層）ディスク>

三菱化学メディア製

ディスクへの書き込みについて

- データ書き込み後、データコンペアを実施してください。
- データを書き込む際は、オペレータがその都度操作するようにしてください（無人でのデータ書き込みはしないでください）。

光ディスクドライブの取り扱いについて

- トレーを引き出したまま放置しないでください。
- ディスクを装着したまま放置しないでください。
- 定期的にトレーをクリーニングしてください。ただし、クリーニングの際にレンズに触れないよう注意してください。

書き込みエラーについて

本製品を使用してディスクにデータを書き込む場合、光ディスクドライブの特性上、使用する環境やディスクの特性などにより、書き込みエラーが発生する場合があります。クリーニング後も書き込みエラーが発生するディスクは、交換してください。

ディスクに書き込みをする前に

- 本製品を使用して、著作権者の許可なしに、音楽CDおよびアプリケーションを複製することは個人的に利用するなどの場合を除き、法律により禁じられています。
- DVD-R、DVD+R、CD-Rは書き込みエラーを起こすとディスクの一部または全体が扱えなくなることがあります。書き込みエラーによるディスクの損失を防ぐため、以下について注意してください。
 - － アプリケーションソフトなどメモリを大量に消費するおそれのあるプログラムを終了する。
 - － スクリーンセーバを停止する。
 - － ウィルスチェッカーやシステムエージェンシなどディスクチェックを行うプログラムを終了する。
 - － スケジューラや時計など書き込み中に起動するおそれのあるものは、起動しないようにする。
 - － パワーマネージメント設定における省電力設定を解除する。
 - － 書き込み中にアプリケーションを起動しない。

ディスクの取り扱い

本製品にセットするディスクは次の点に注意して取り扱ってください。

- 本製品は、CD/DVD規格に準拠しない「コピーガード付きCD/DVD」などのディスクにつきましては、CD/DVD再生機器における再生の保証はいたしかねます。
- ディスクを落とさないでください。
- ディスクの上にものを置いたり、曲げたりしないでください。
- ディスクにラベルなどを貼らないでください。
- 信号面（文字などが印刷されていない面）に手を触れないでください。
- 文字の書かれている面を上にして、トレーにていねいに置いてください。
- キズをつけたり、鉛筆やボールペンで文字などを直接ディスクに書き込まないでください。
- たばこの煙の当たるところには置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- 指紋やほこりがついたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けてゆっくり、ていねいにふいてください。
- 清掃の際は、各ディスク専用のクリーナをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーなどは使わないでください。
- 使用後は、専用の収納ケースに保管してください。

書き込み時間または読み込み時間の変動について

本製品は、セットしたディスクの状態を検出し、最適な書き込み速度または読み込み速度に調整する機能を有しているためディスクの状態により、書き込みまたは読み込みが完了するまでの時間が異なる場合があります。

OSのクリアインストールをする前に

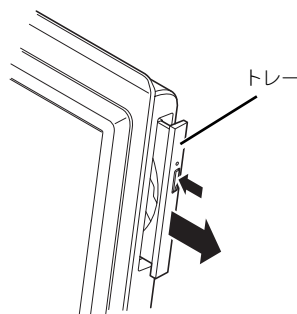
EXPRESSBUILDERを使ってシームレスセットアップする際に、DVDを交換すると正しく認識されない場合があります。

DVDを交換しても正しく認識されない場合、トレイジェクトボタンを押して、DVDをイジェクトし、再度、セットし直してください。

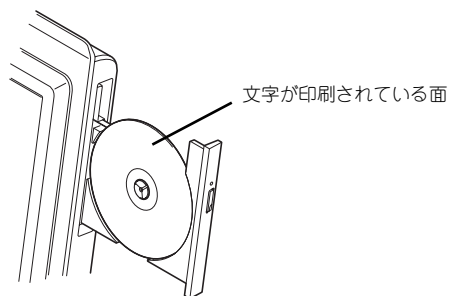
ディスクのセット

ディスクは次の手順でセットします（ここでは横置きの場合を例に説明しています）。

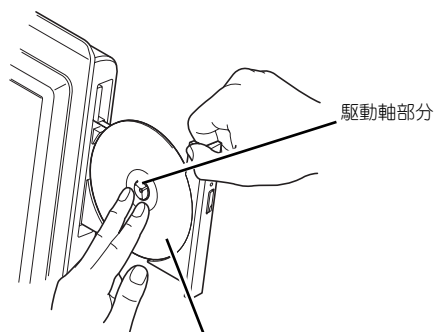
1. ディスクをドライブにセットする前に本装置の電源がON（POWER/SLEEPランプが緑色に点灯）になっていることを確認する。
2. ドライブ前面のトレイジェクトボタンを押す。
トレイが少し出てきます。
3. トレーを軽く持って手前に引き出し、トレイが止まるまで引き出す。



4. ディスクの文字が印刷されている面を上にしてトレイの上に静かに、確実に置く。

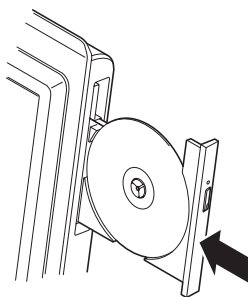


5. 右図のように片方の手でトレイを持ちながら、もう一方の手でトレイの中心にある駆動軸部分にディスクの穴がはまるように指で押して、トレイにセットする。



光ディスクのこの部分を押す

6. トレーの前面を軽く押して元に戻す。



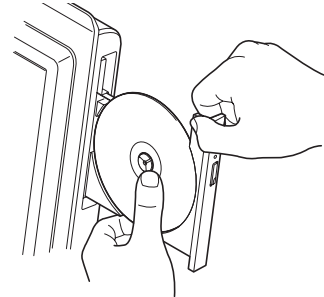
ディスクのセット後、ドライブの駆動音が大きく聞こえるときは、再度ディスクをセットし直してください。

ディスクの取り出し

ディスクの取り出しは、ディスクをセットするときと同じようにトレイジェクトボタンを押してトレイを引き出します。

アクセスランプが点灯しているときはディスクにアクセスしていることを示します。トレイジェクトボタンを押す前にアクセスランプが点灯していないことを確認してください。

右図のように、片方の手でトレイを持ち、もう一方の手でトレイの中心にある駆動軸部分を押さえながらディスクの端を軽くつまみ上げるようにしてトレイから取り出します。



ディスクを取り出したらトレイを元に戻してください。



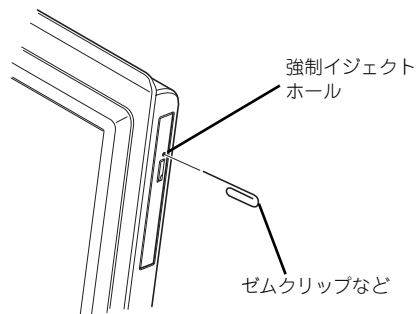
ドライブ内にディスクがある場合、電源投入時に必ずディスクが回転します。その際に発生する風により、ほこりの侵入を増加させますので、ディスクを使用しない場合はできるだけずしておいてください。

ディスクが取り出せない場合の手順

トレイジェクトボタンを押してもディスクを本装置から取り出せない場合は、次の手順に従って取り出します。

1. POWER/SLEEPスイッチを押して本装置の電源をOFF（POWER/SLEEPランプ消灯）にする。
2. 直径約1.2mm、長さ約100mmの金属製のピン（太めのゼムクリップを引き伸ばして代用できる）をドライブ前面右側にある強制イジェクトホールに差し込んで、トレイが出てくるまでゆっくりと押す。

ドライブのタイプによって強制イジェクトホールの位置がことなることがあります。



- つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。
- 上記の手順を行ってもディスクが取り出せない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

3. トレーを持って引き出す。
4. ディスクを取り出す。
5. トレーを押して元に戻す。

タッチパネルのキャリブレーション

タッチパネルモデルにはタッチパネル機能が装備されています。

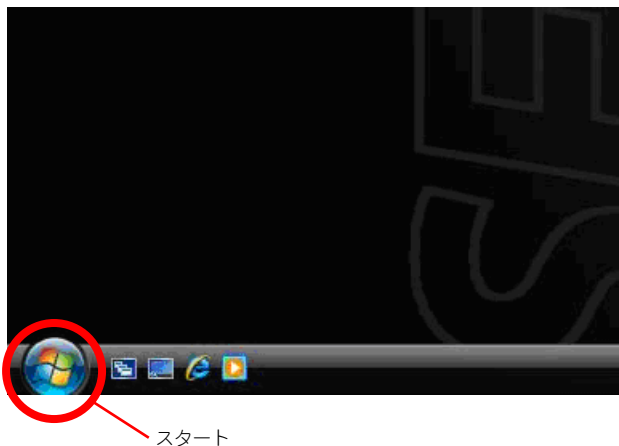
画面に触れた際にマウスカーソルの動きが一致しない場合、システムにインストールされているIdeaCom TSCツールを使用してタッチパネルの精度を調整することができます。

以下の手順に従ってタッチパネルのキャリブレーション（位置補正）を実施してください。

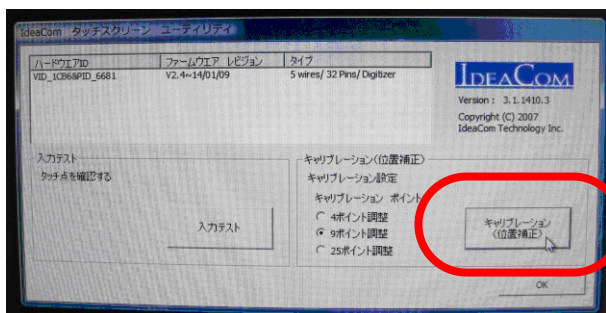


以下の手順はWindows Vistaのものですが、操作方法は、Windows Vista/Windows Xp共通です。グラフィックスモデルにもIdeaCom TSCツールが入っていますが使用できません。誤ってIdeaCom TSCツールを起動した場合は、ESCキーで終了させてください。

1. 画面左下の「スタート」→「全てのプログラム」→「IdeaCom TSC」→「IdeaCom TSC」の順にクリックし、IdeaCom TSCツールを起動する。



2. 下図のようにIdeaCom タッチスクリーン ユーティリティが表示されたら、表示されたユーティリティのウィンドウ内にある「キャリブレーション（位置補正）」をクリックし、タッチパネルの精度を調整する。

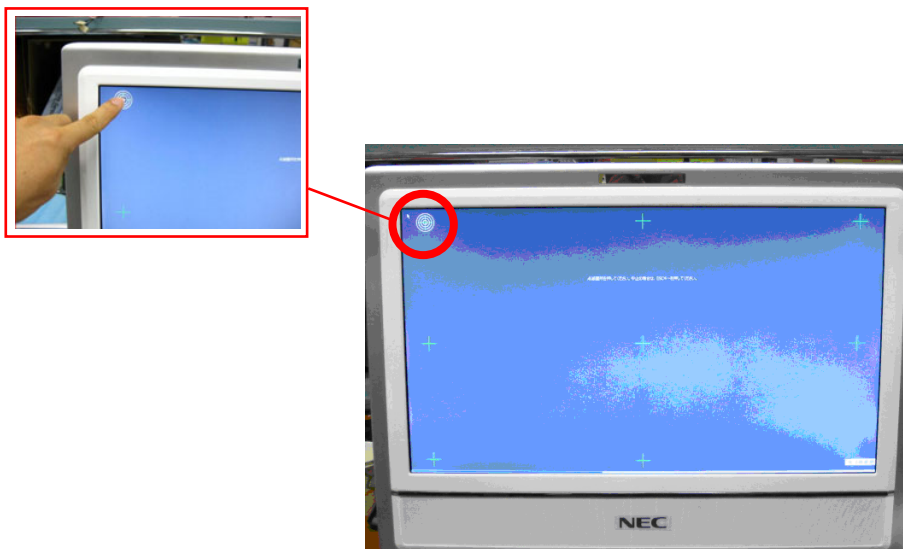


チェック

キャリブレーションを実施する際に3つのモード（4ポイント調整、9ポイント調整、25ポイント調整）があります。「9ポイント調整」を選択してキャリブレーションすることを推奨しますが、最高の精度で調整したい場合には25ポイント調整を選択し、キャリブレーションを実施してください。

3. 下図のような画面が表示されるので画面上の指示に従って、それぞれのポイントを順に押していく。

ピープ音が聞こえるか、または点滅が停止するまで点滅するポイントに触れ続けてください。中断する場合には、ESCキーを押してください。



キャリブレーションで画面に触れる際、必ず指で行ってください。先のとがったものでスクリーンに直接触れると、位置補正が正常にできない場合があるばかりか、スクリーンを破損するおそれがあります。

4. キャリブレーション作業終了後、IdeaComタッチスクリーン ユーティリティを閉じる。

Webカメラ

本装置前面の上部にWebカメラが搭載されています。

準備

Webカメラを使用する前に、次に示す手順に従って準備を行ってください。

1. 本装置など、DVD媒体が読み込める装置へ「EXPRESSBUILDER」DVDをセットする。
2. オートランメニューが起動した場合は、終了させる。
3. エクスプローラから「EXPRESSBUILDER」DVDに格納された以下のファイル任意のフォルダへコピーする。

<Vista>

¥007¥win¥winnt¥vista¥webcam¥amcap2.exe

<XP>

¥007¥win¥winnt¥xp¥webcam¥amcap2.exe

操作方法

Webカメラを使用するときは、以下の手順に従って、操作を行ってください。

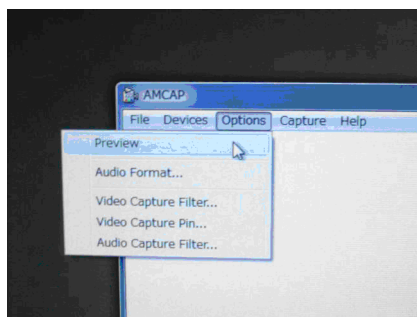
1. 任意のフォルダにコピーした、
[AMCAP] アイコンをダブルク
リックする。

[AMCAP]ウィンドウが表示され
ます。



2. 「options」メニューから
「Preview」をクリックする。

Webカメラが起動し、画面に映像
が表示されます。



デュアルディスプレイ（クローン・拡張デスクトップ）の設定

本装置ではHDMI接続またはVGA接続で、デュアルディスプレイで表示させることができます。

以下に設定方法について説明します。



- 何も設定せずにHDMIとVGAの両方にモニタを接続した場合、本装置のモニタとHDMIのモニタが表示されます。
- 本装置のモニタ、HDMI、VGAのうち、いずれか2つの組み合わせのみの表示になります。
- 初期状態はクローンとなります。

1. デスクトップ上のアイコンがない部分で右クリックをする。

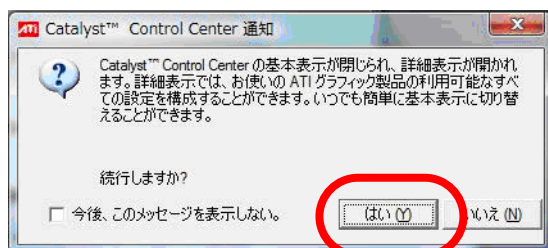
メニューから「Catalyst(TM) Control Center」を選択してください。



2. 下図のような画面が出た場合、「詳細」を選択し、「次へ」をクリックする。



3. 下図のような画面が出た場合、「はい」をクリックする。



4. 「グラフィック設定」のメニュー内にある「ディスプレイマネージャ」を選択する。

下図はHDMI、VGAの各モニタを接続したときの内容になっています。

「メイン」に本装置、「クローン」にHDMI、「現在無効の取り付けられているディスプレイ」にVGAのモニタのアイコンが表示されます。

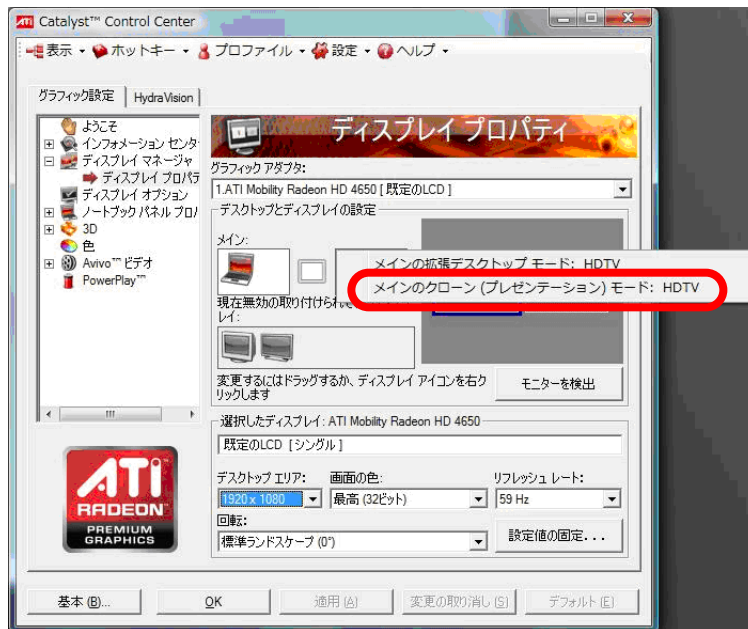


HDMIまたはVGAのモニタを接続しても認識しない場合、「モニターを検出」をクリックしてください。

5. デスクトップとディスプレイの設定を選択する。

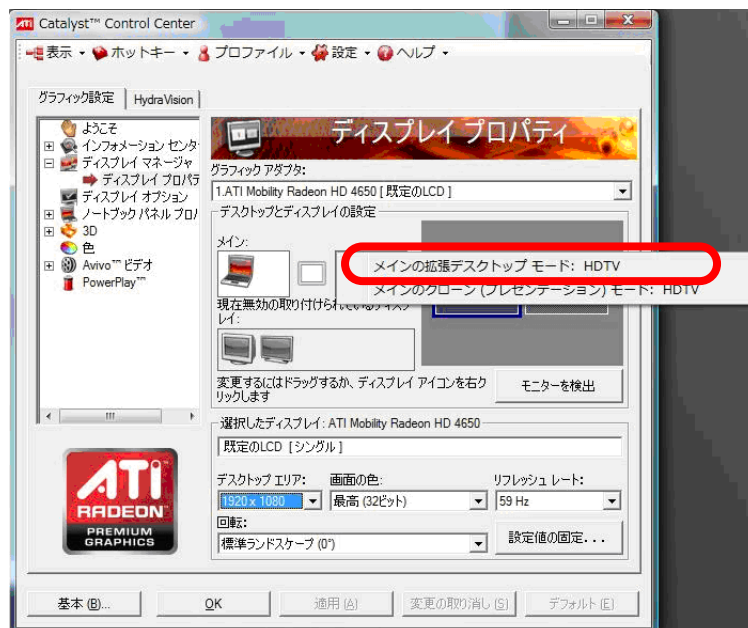
<クローンを使用する場合>

クローン表示させたいモニタのアイコンをもう一つの枠内へドラッグ&ドロップで選択し、表示されるメニューのうち、「メインのクローン（プレゼンテーション）モード」を選択してください。



<拡張デスクトップを使用する場合>

拡張デスクトップ表示させたいモニタのアイコンをもう一つの枠内へドラッグ&ドロップで選択し、表示されるメニューのうち「メインの拡張デスクトップモード」を選択してください。

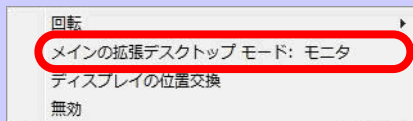




クローンから拡張デスクトップへ変更する場合、一度「クローン」に表示されているモニタのアイコンをドラッグ&ドロップで「現在無効の取り付けられているディスプレイ」へ移動させて削除してください。

その後、再度、ドラッグ&ドロップでアイコンを移動させ、「メインの拡張デスクトップモード」を選択してください。

または、「クローン」内に表示されているモニタのアイコンを右クリックし、表示されるメニュー内の「メインの拡張デスクトップモード」を選択してください。



拡張デスクトップからクローンへ変更する場合も同様の操作を行い、設定し直してください。

BIOSのセットアップ

Basic Input Output System (BIOS) の設定方法について説明します。

本製品を導入したときやオプションの取り付け／取り外しをするときは、ここで説明する内容をよく理解して、正しく設定してください。

システムBIOS (SETUP)

SETUPは本装置の基本ハードウェアの設定をするためのユーティリティツールです。このユーティリティは本体内のフラッシュメモリに標準でインストールされているため、専用のユーティリティなどがなくても実行できます。

SETUPで設定される内容は、出荷時に最も標準で最適な状態に設定していますのでほとんどの場合においてSETUPを使用する必要はありませんが、この後に説明するような場合など必要に応じて使用してください。



- SETUPの操作は、システム管理者（アドミニストレータ）が行ってください。
- SETUPでは、パスワードを設定することができます。パスワードには、「Supervisor」と「User」の2つのレベルがあります。「Supervisor」レベルのパスワードでSETUPにアクセスした場合、すべての項目の変更ができます。「Supervisor」のパスワードが設定されている場合、「User」レベルのパスワードでは、設定内容を変更できる項目が限られます。
- OS（オペレーティングシステム）をインストールする前にパスワードを設定しないでください。
- SETUPユーティリティは、最新のバージョンがインストールされています。このため設定画面が本書で説明している内容と異なる場合があります。設定項目については、オンラインヘルプを参照するか、保守サービス会社に問い合わせてください。
- 本装置では、使用するOSを選択するようなBIOSパラメータ値はありません。プラグ・アンド・プレイのサポート有無に関する設定は特に必要ありません。
- SATA AHCIモードで使用する場合は、必ず、「Advanced」メニューの「Advanced Chpiset Setup」→「Configure SATA#1 as」を「AHCI」に設定してください。
「SETUPユーティリティ」にて「Exit」→「Load Optimal Defaults」をした場合も必ず、本設定を行ってください。
これらのメニューは購入したモデルによって出荷時の設定、およびデフォルト値が異なります。不明な点がある場合は無理な操作をせずにお買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

起 動

本装置の電源をONにするとディスプレイ装置の画面にPOST（Power On Self-Test）の実行内容が表示されます。

しばらくすると、次のメッセージが画面左中央に表示されます。

Press F2 to run Setup

ここで<F2>キーを押すと、SETUPが起動してMainメニュー画面を表示します（「NEC」ロゴが表示中に<F2>キーを押してもMainメニュー画面が表示されます）。

以前にSETUPを起動してパスワードを設定している場合は、パスワードを入力する画面が表示されます。パスワードを入力してください。

Enter CURRENT Password:[]

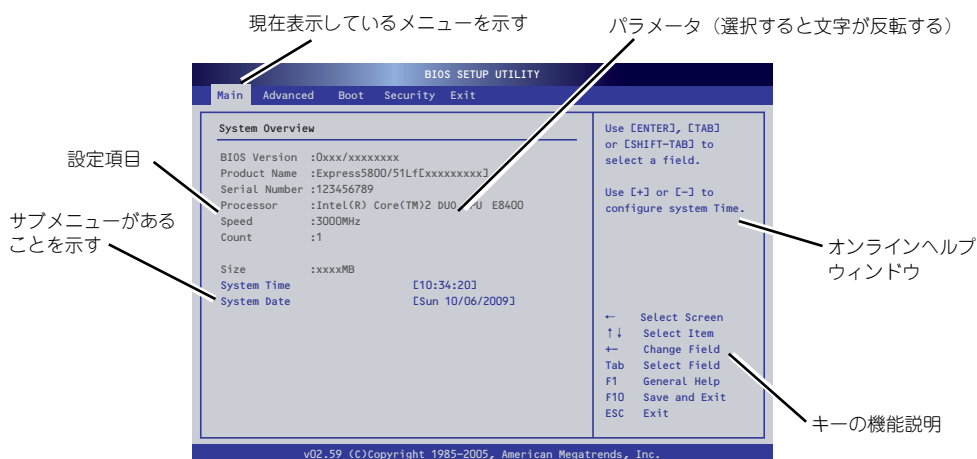
パスワードの入力は、3回まで行えます。3回とも誤ったパスワードを入力すると、本装置は動作を停止します（これより先の操作を行えません）。電源をOFFにしてください。



パスワードには、「Supervisor」と「User」の2種類のパスワードがあります。「Supervisor」では、SETUPでのすべての設定の状態を確認したり、それらを変更したりすることができます。「User」では、確認できる設定や、変更できる設定に制限があります。

キーと画面の説明

キーボード上の次のキーを使ってSETUPを操作します（キーの機能については、画面下にも表示されています）。



□ カーソルキー（↑、↓）

画面に表示されている項目を選択します。文字の表示が反転している項目が現在選択されています。

- ☐ カーソルキー（←、→）
MainやAdvanced、Security、Boot、Exitなどのメニューを選択します。
- ☐ <→>キー／<+>キー
選択している項目の値（パラメータ）を変更します。サブメニュー（項目の前に「▶」がついているもの）を選択している場合、このキーは無効です。
- ☐ <Enter>キー
選択したパラメータの決定を行うときに押します。
- ☐ <Esc>キー
ひとつ前の画面に戻ります。
- ☐ <F1>キー
SETUP の操作でわからないことがあったときはこのキーを押してください。SETUPの操作についてのヘルプ画面が表示されます。<Esc>キーを押すと、元の画面に戻ります。
- ☐ <F9>キー
現在表示している項目のパラメータをデフォルトのパラメータに戻します（出荷時のパラメータと異なる場合があります）。
- ☐ <F10>キー
新たに選択した内容をCMOSメモリ（不揮発性メモリ）内に保存してSETUPを終了し、システムを再起動します。

設定例

次にソフトウェアと連携した機能や、システムとして運用するときに必要な機能の設定例を示します。

日付・時間の設定

日付や時間の設定は、オペレーティングシステム上でもできます。

「Main」→「System Time」（時刻の設定）

「Main」→「System Date」（日付の設定）

ハードディスクドライブ関連

ハードディスクドライブの状態を確認する

「Advanced」→「Advanced chipset setup」→「SATA#（番号）Device」→表示を確認する

UPS関連**UPSと電源連動させる**

- － UPSから電源が供給されたら常に電源をONさせる
「Advanced」 → 「Power Management Setup」 → 「Restore on AC Power Loss」
→ 「Power On」
- － POWER/SLEEPスイッチを使ってOFFにしたときは、UPSから電源が供給されても電源をOFFのままにする
「Advanced」 → 「Power Management Setup」 → 「Restore on AC Power Loss」
→ 「Last State」

起動関連**本装置に接続している起動デバイスの順番を変える**

「Boot」 → 「Boot Device Priority」 → 起動順序を設定する

NECロゴを表示する

「Advanced」 → 「Advanced BIOS Setup」 → 「Quiet Boot」 → 「Enabled」

リモートパワーオン機能を使用する

「Advanced」 → 「Power Management Setup」 → 「GbE Wake Up From S5」

メモリ関連**搭載しているメモリ(DIMM) の容量を確認する**

「Main」 → 「System Memory」 → 表示を確認する

プロセッサ関連**搭載しているCPUの情報を確認する**

「Main」 → 「Processor/Speed/Count」 → 表示を確認する

キーボード関連**Numlockを設定する**

「Advanced」 → 「Advanced BIOS Setup」 → 「Bootup Num-Lock」

セキュリティ関連**BIOSレベルでのパスワードを設定する**

「Security」 → 「Change Supervisor Password」 → パスワードを入力する

「Security」 → 「Change User Password」 → パスワードを入力する

管理者パスワード（Supervisor）、ユーザーパスワード（User）の順に設定します。

内蔵機器関連

本体内蔵のコントローラに対する設定をする

「Advanced」→「Advanced Chipset Setup」→それぞれのデバイスに対して設定をする

ハードウェアの構成情報をクリアする（内蔵機器の取り付け/取り外しの後）

「Advanced」→「Advanced BIOS Setup」→「Clear NVRAM」→「Yes」

オプションボードの取り付け/取り外しを行った後は、必ず実行してください。

設定内容のセーブ関連

BIOSの設定内容を保存して終了する

「Exit」→「Save Changes and Exit」

変更したBIOSの設定を破棄して終了する

「Exit」→「Discard Changes and Exit」

変更したBIOSの設定を破棄する

「Exit」→「Discard Changes」

BIOSの設定をデフォルトの設定に戻す

「Exit」→「Load Optimal Defaults」



重要

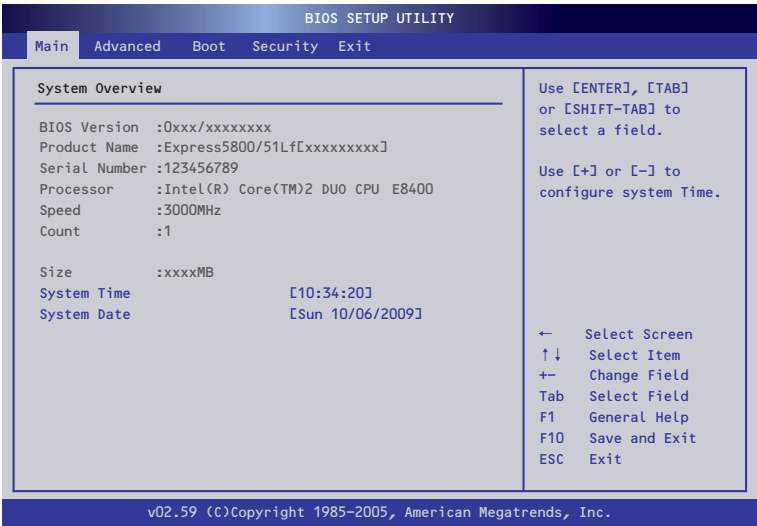
SATA AHCIモードで使用する場合は、必ず、「Advanced」メニューの「Advanced Chpiset Setup」→「Configure SATA#1 as」を「AHCI」に設定してください。

CMOSメモリをクリアした場合や「SETUPユーティリティ」にて「Exit」→「Load Optimal Defaults」をした場合も必ず、本設定を行ってください。

これらのメニューは購入したモデルによって出荷時の設定、およびデフォルト値が異なります。不明な点がある場合は無理な操作をせずにお買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

Main

SETUPを起動すると、まずはじめにMainメニューが表示されます。項目の前に「▶」がついているメニューは、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



Mainメニューの画面上で設定できる項目とその機能を示します。

項 目	パラメータ	説 明
BIOS Version	0xxx/xxxxxxx	BIOSバージョンを表示します(表示のみ)。
Product Name	Express5800/51Da-22W [xxxxxxx]	型番を表示します(表示のみ)。
Serial Number	123456789	本体のシリアル番号を表示します(表示のみ)。
Processor	—	搭載されているProcessorのモデル名を表示します (表示のみ)。
Speed	—	搭載されているProcessorのスピードを表示します (表示のみ)。
Count	—	搭載されているProcessorのCountを表示します (表示のみ)。
Size	xxxxMB	搭載されているMemory容量を表示します (表示のみ)。
System Time	HH:MM:SS	時刻の設定をします。
System Date	WW, MM DD YYYY	日付の設定をします。

[]: 出荷時の設定



BIOSのパラメータで時刻や日付の設定が正しく設定されているか必ず確認してください。次の条件に当てはまる場合は、運用の前にシステム時計の確認・調整をしてください。

- 装置の輸送後
- 装置の保管後
- 装置の動作を保証する環境条件（温度：10℃～35℃・湿度：20%～80%）から外れた条件下で休止状態にした後

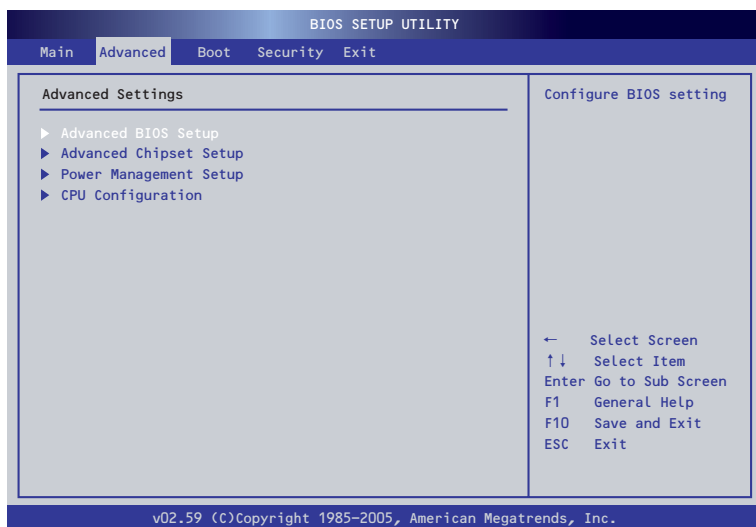
システム時計は毎月1回程度の割合で確認してください。また、高い時刻の精度を要求するようなシステムに組み込む場合は、タイムサーバ（NTPサーバ）などを利用して運用することをお勧めします。

システム時計を調整しても時間の経過と共に著しい遅れや進みが生じる場合は、お買い求めの販売店、または保守サービス会社に保守を依頼してください。

Advanced

カーソルを「Advanced」の位置に移動させると、Advancedメニューが表示されます。

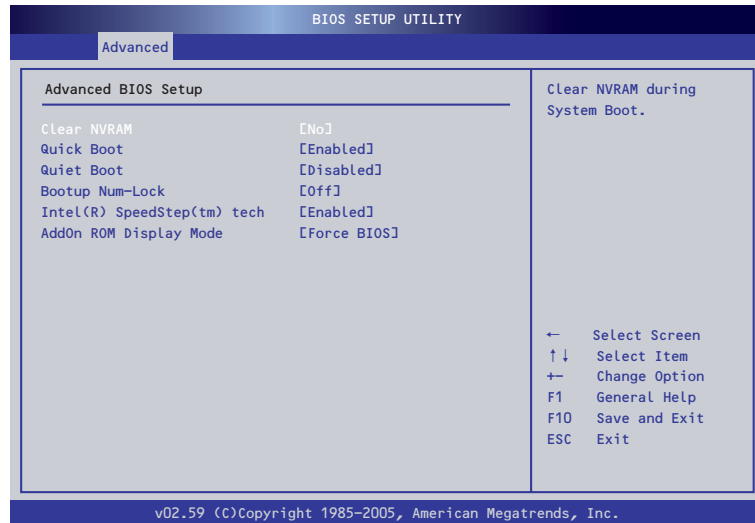
項目の前に「▶」がついているメニューは、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



サブメニューについては次ページ以降を参照してください。

Advanced BIOS Setup

Advancedメニューで「Advanced BIOS Setup」を選択すると、以下の画面が表示されます。



項目については次の表を参照してください。

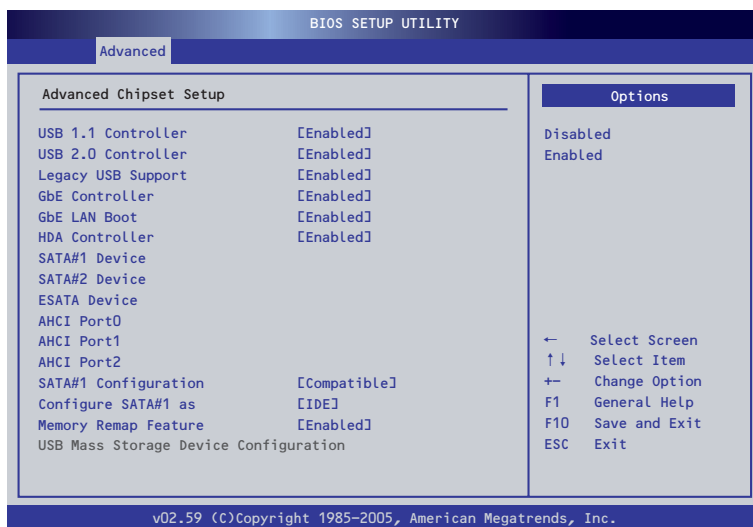
項 目	パラメータ	説 明
Clear NVRAM	[No] Yes	POSTで記憶しているシステム情報をクリアするときは「Yes」に設定します。システムの起動後にこのパラメータは「No」に切り替わります。
Quick Boot	[Enabled] Disabled	POSTで実行されるいくつかのテストを省略し、システムの起動時間を短縮させることができます。ただし、動作が不安定になったときや強制的に再起動した場合、およびハードウェアの構成を変更した後は無効にしてすべてのテストをすることをお勧めします。
Quiet Boot	[Disabled] Enabled	POSTの診断内容を画面に表示させるかどうかを設定します。「Enabled」ではPOST中に「NEC」ロゴを表示します。
Bootup Num-Lock	[Off] On	システム起動時にNumLockの有効/無効を設定します。
Intel(R) SpeedStep(tm) tech.	[Enabled] Disabled	オペレーティングシステムによるプロセッサの駆動電圧の抑止機能を有効にするか、無効にするかを選択します。「Disabled」で常に最高周波数で駆動するための電力を供給します。 注：Intel® SpeedStep™ Technologyに対応したCPUを搭載した場合にのみ表示されます。

項 目	パラメータ	説 明
AddOn ROM Display Mode	[Force BIOS] Keep Current	「Force BIOS」を選択した場合、拡張BIOSによるメッセージが表示されます。 「Keep Current」を選択し、かつ、[Quiet BIOS]を「Enabled」にした場合、拡張BIOSによるメッセージは表示されません。

[]: 出荷時の設定

Advanced Chipset Setup

Advancedメニューで「Advanced Chipset Setup」を選択すると、以下の画面が表示されます。



項目については次の表を参照してください。

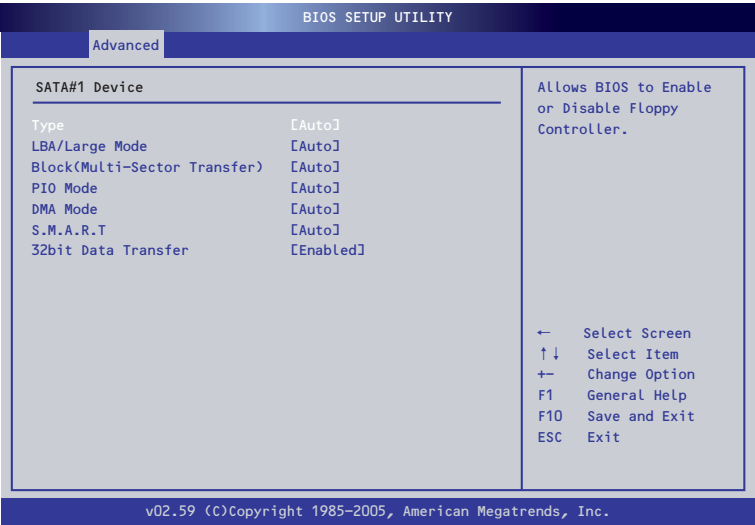
項 目	パラメータ	説 明
USB 1.1 Controller	[Enabled] Disabled	オンボードUSBコントローラでUSB 1.1をサポートさせるかどうかを設定します。ただし、[Disabled]にするとUSBが認識しなくなるので設定を変更しないでください。
USB 2.0 Controller	[Enabled] Disabled	オンボードUSBコントローラでUSB 2.0をサポートさせるかどうかを設定します。
Legacy USB Support	[Enabled] Disabled	USBを正式にサポートしていないOSでもUSBキーボードが使用できるようにするかどうかを設定します。「USB Controller」が「Enabled」のときに表示されます。
GbE Controller	[Enabled] Disabled	オンボードLANコントローラの有効／無効を設定します。
GbE LAN Boot	[Enabled] Disabled	オンボードLANチップを用いてのPXE Bootの有効／無効を設定します。
HDA Controller	[Enabled] Disabled	内蔵のオーディオコントローラの有効／無効を設定します。

項 目	パラメータ	説 明
SATA#1 Device	—	接続デバイスの設定を行います。この項目は「Configure SATA#1 as」で「IDE」を選択した場合に表示されます。
SATA#2 Device	—	接続デバイスの設定を行います。この項目は「Configure SATA#1 as」で「IDE」を選択した場合に表示されます。
ESATA Device	—	接続デバイスの設定を行います。この項目は「Configure SATA#1 as」で「IDE」を選択した場合に表示されます。
AHCI Port0	—	接続デバイスの設定を行います。
AHCI Port1	—	接続デバイスの設定を行います。
AHCI Port2	—	接続デバイスの設定を行います。
SATA#1 Configuration	[Compatible] Enhanced Disabled	SATAコントローラ#1の設定を選択します。この項目は変更しないでください。この項目は、「Configure SATA#1 as」で「IDE」を選択した場合に表示されます。
Configure SATA#1 as	[IDE] AHCI	AHCI機能の有効／無効を設定します。AHCI有効に設定したい場合は、「AHCI」に設定してください。
Memory Remap Feature	Disabled [Enabled]	メモリの再割り当て機能の有効／無効を設定します。
USB Mass Storage Device Configuration	—	USB大容量記憶装置デバイス構成の設定を行います。「User Password」を設定したときのみ表示されます。

[]: 出荷時の設定

SATA#1 Device

Advancedメニューで「SATA#1 Device」を選択すると、以下の画面が表示されます。



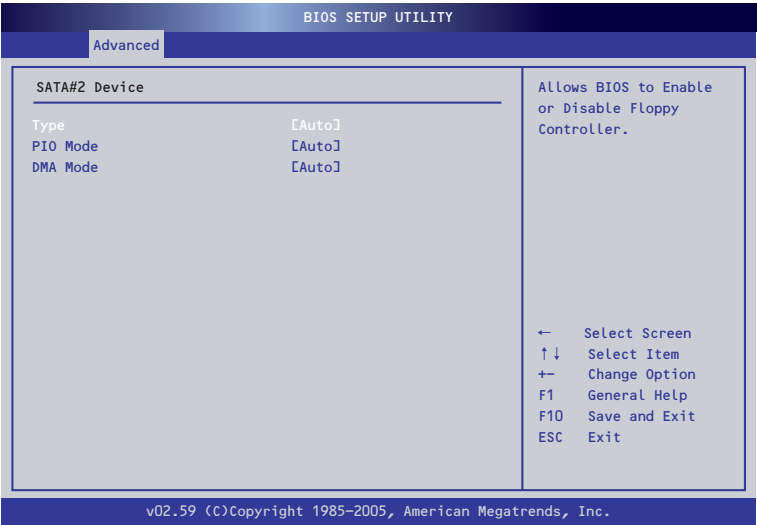
項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
Type	Not Installed [Auto] CD/DVD ARMD	使用するTypeを設定します。
LBA/Large Mode	Disabled [Auto]	LBA/Large Modeを設定します。
Block(Multi-Sector Transfer)	Disabled [Auto]	Multi-Sector Transferを設定します。
PIO Mode	[Auto] 0, 1, 2, 3, 4	使用するPIOモードを設定します。
DMA Mode	[Auto] SWDMA0, SWDMA 1 SWDMA2, MWDMA0 MWDMA1, MWDMA2 UDMA0, UDMA 1 UDMA2, UDMA3 UDMA4, UDMA5 UDMA6	使用するDMAチャンネルモードを設定します。
S.M.A.R.T	[Auto] Disabled Enabled	SMART機能の有効／無効を設定します。
32bit Data Transfer	Disabled [Enabled]	32bit Data Transferを設定します。

[]: 出荷時の設定

SATA#2 Device

Advancedメニューで「SATA#2 Device」を選択すると、以下の画面が表示されます。



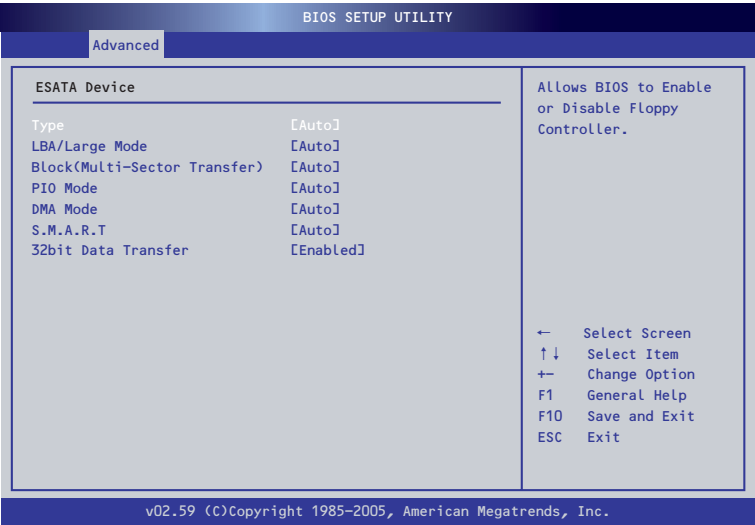
項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
Type	Not Installed [Auto] CD/DVD ARMD	使用するデバイスの種類を設定します。
PIO Mode	[Auto] 0, 1, 2, 3, 4	使用するPIOモードを設定します。
DMA Mode	[Auto] SWDMA0, SWDMA1 SWDMA2, MWDMA0 MWDMA1, MWDMA2 UDMA0, UDMA1 UDMA2, UDMA3 UDMA4, UDMA5	使用するDMAチャネルモードを設定します。

[]: 出荷時の設定

ESATA Device

Advancedメニューで「ESATA Device」を選択すると、以下の画面が表示されます。



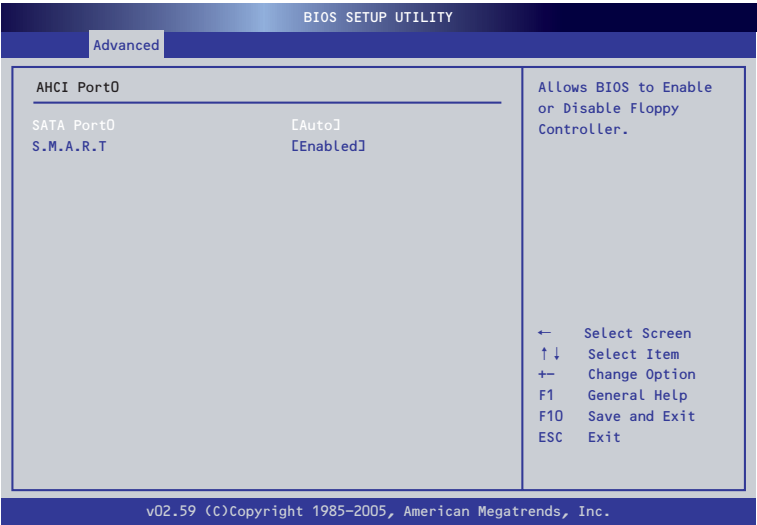
項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
Type	Not Installed [Auto] CD/DVD ARMD	使用するデバイスの種類を設定します。
LBA/Large Mode	Disabled [Auto]	LBA/Large Modeを設定します。
Block(Multi-Sector Transfer)	Disabled [Auto]	Multi-Sector Transferを設定します。
PIO Mode	[Auto] 0, 1, 2, 3, 4	使用するPIOモードを設定します。
DMA Mode	[Auto] SWDMA0, SWDMA 1 SWDMA2, MWDMA0 MWDMA1, MWDMA2 UDMA0, UDMA 1 UDMA2, UDMA3 UDMA4, UDMA5 UDMA6	使用するDMAチャンネルモードを設定します。 ESATA非接続時は、「AUTO」のみ表示されます。
S.M.A.R.T	[Auto] Disabled Enabled	SMART機能の有効／無効を設定します。
32bit Data Transfer	Disabled [Enabled]	32bit Data Transferを設定します。

[]: 出荷時の設定

AHCI Port0

Advancedメニューで「AHCI Port0」を選択すると、以下の画面が表示されます。



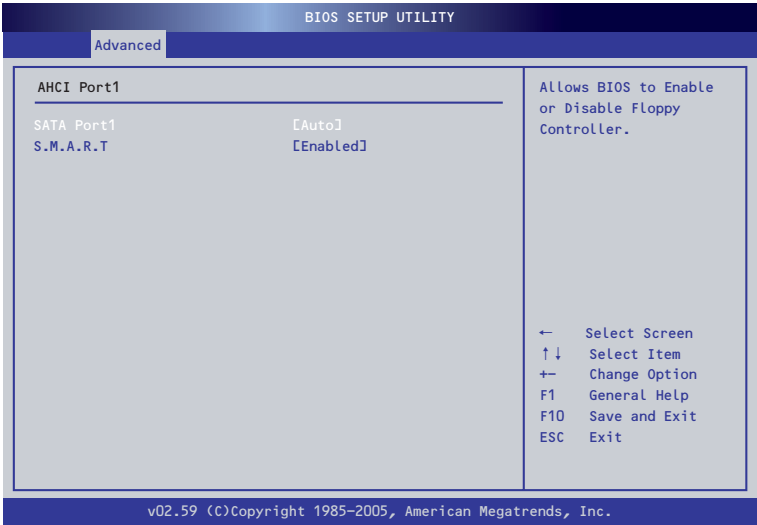
項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
SATA Port0	[Auto] Not Installed	使用するデバイスの種類を設定します。
S.M.A.R.T	Disabled [Enabled]	SMART機能の有効／無効を設定します。

[]: 出荷時の設定

AHCI Port1

Advancedメニューで「AHCI Port1」を選択すると、以下の画面が表示されます。



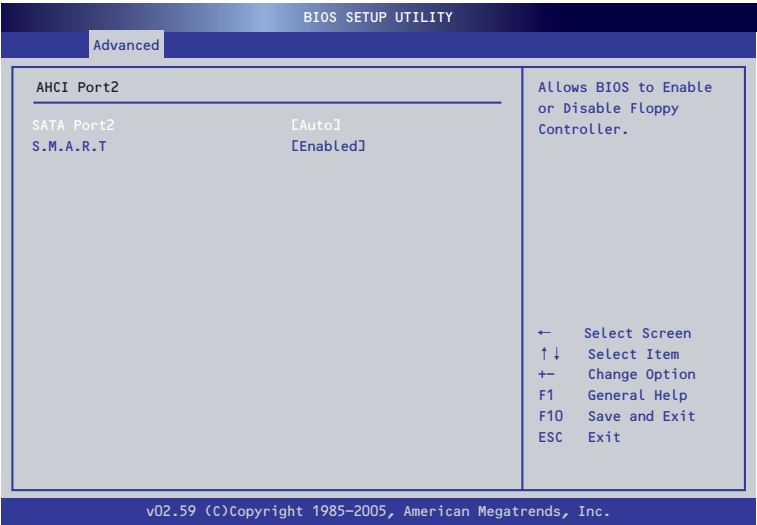
項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
SATA Port1	[Auto] Not Installed	使用するデバイスの種類を設定します。
S.M.A.R.T	Disabled [Enabled]	SMART機能の有効／無効を設定します。

[]: 出荷時の設定

AHCI Port2

Advancedメニューで「AHCI Port2」を選択すると、以下の画面が表示されます。



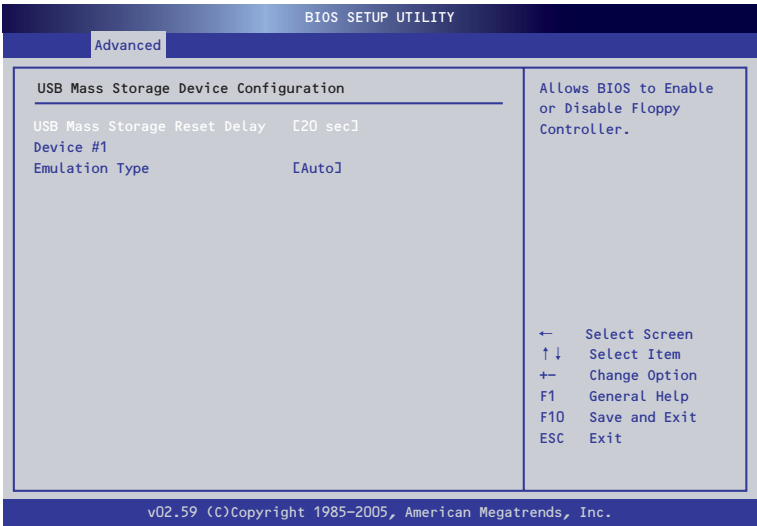
項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
SATA Port2	[Auto] Not Installed	使用するデバイスの種類を設定します。
S.M.A.R.T	Disabled [Enabled]	SMART機能の有効／無効を設定します。

[]: 出荷時の設定

USB Mass Storage Device Configuration

Advancedメニューで「USB Mass Storage Device Configuration」を選択すると、以下の画面が表示されます。



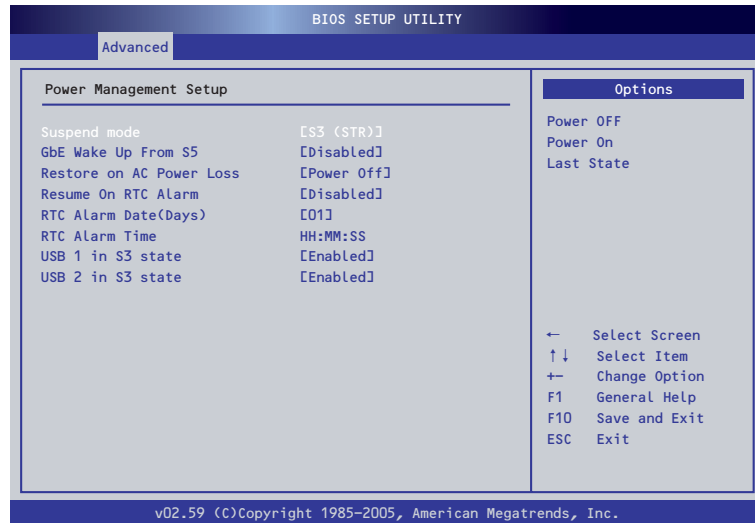
項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
USB Mass Storage Reset Delay	10 sec [20 sec] 30 sec 40 sec	USB記憶装置のリセットタイムの設定を行います。
Device #1	—	USBデバイス情報が表示されます。
Emulation Type	[Auto] Floppy Forced FDD Hard Disk CDROM	USB記憶装置のEmulation Typeの設定を行います。

[]: 出荷時の設定

Power Management Setup

Advancedメニューで「Power Management Setup」を選択すると、以下の画面が表示されます。



項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
Suspend mode	[S3 (STR)] S1 (POS)	OSによる省電力機能（電源管理がACPIモード）をサポートしている場合にスリープ（サスペンド）モードの設定ができます。
GbE Wake Up From S5	[Disabled] Enabled	ネットワークを介したリモートパワーオン機能の有効／無効を設定します。
Restore on AC Power Loss	[Power Off] Power On Last state	AC-リンク機能を設定します。AC電源が再度供給されたときのシステムの電源の状態を設定します（この後の表を参照）。無停電電源装置（UPS）を利用して自動運転を行う場合は、「AC-LINK」の設定を「Power On」にしてください。
Resume On RTC Alarm	[Disabled] Enabled	S5 RTC WAKE機能の有効／無効を設定します。
RTC Alarm Date(Days)	1- [01] - 31	S5 RTC WAKE日付の設定を行います。 ※本メニューは「Resume On RTC Alarm」を「Enabled」設定時に表示されます。
RTC Alarm Time	HH:MM:SS	S5 RTC WAKE時間の設定を行います。 ※本メニューは「Resume On RTC Alarm」を「Enabled」設定時に表示されます。
USB 1 in S3 state	Disabled [Enabled]	USB 1 in S3 state機能の有効／無効を設定します。
USB 2 in S3 state	Disabled [Enabled]	USB 2 in S3 state機能の有効／無効を設定します。

[]: 出荷時の設定

「Restore on AC Power Loss」の設定と本装置のAC電源がOFFになってから再度電源が供給されたときの動作を次の表に示します。

AC電源OFFの前の状態	設 定	
	Power Off	Power On
動作中	Off	On
停止中（DC電源もOffのとき）	Off	On
強制電源OFF*	Off	On

* POWER/SLEEPスイッチを4秒以上押し続ける操作です。強制的に電源をOFFにします。



無停電電源装置 (UPS) を利用し自動運転を行う場合は「AC-LINK」の設定を「Power On」にしてください。

CPU Configuration

Advancedメニューで「CPU Configuration」を選択すると、以下の画面が表示されます。



項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
Manufacturer	Intel	
type	—	cputype情報が表示されます。
Frequency	—	Frequency情報が表示されます。
FSB Speed	xxxxMHz	FSB Speed情報が表示されます。
Cache L1	xx KB	Cache L1情報が表示されます。
Cache L2	xxxx KB	Cache L2情報が表示されます。
Ratio Actual Value	xx	Ratio Actual Value情報が表示されます。
Hardware Prefetcter	Disabled [Enabled]	Hardware Prefetcter 機能の有効/無効を設定します。

項 目	パラメータ	説 明
Adjacent Cache Line Prefetch	Disabled [Enabled]	Adjacent Cache Line Prefetch機能の有効／無効を設定します。
Intel(R) Virtualization Tech	Disabled [Enabled]	インテルプロセッサが提供する「仮想化技術」機能の有効／無効を設定します。
Execute-Disable Bit Capability	Disabled [Enabled]	「Enabled」に設定するとWindows OSのDEP機能が利用可能になります。 ※Execute-Disable Bit Capabilityに対応したCPUを搭載した場合のみ表示されます。
Core Multi-Processing	Disabled [Enabled]	マルチコアモードの有効／無効を設定します。
PECI	Disabled [Enabled]	PECIモードの有効／無効を設定します。
C1E Support	Disabled [Enabled]	C1Eステート移行によるプロセッサの省電力機能の有効／無効を設定します。
Intel(R) C-STATE tech	Disabled [Enabled]	C-STATE techモードの有効／無効を設定します。

[]: 出荷時の設定

Boot

カーソルを「Boot」の位置に移動させると、Bootメニューが表示されます。

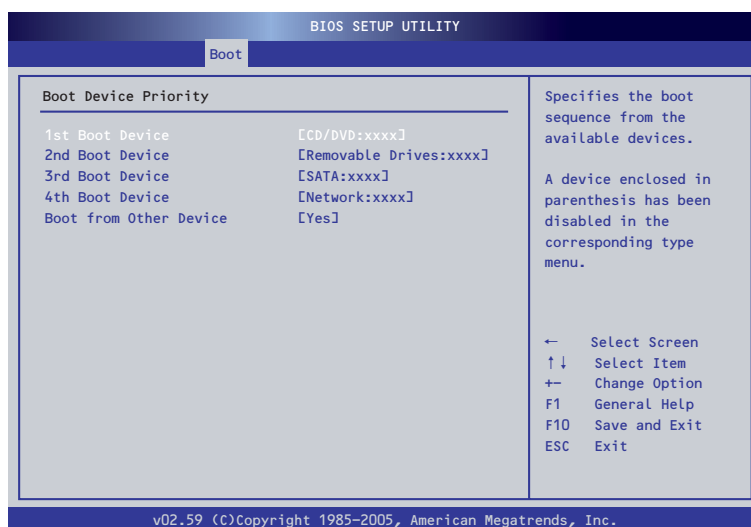
項目の前に「▶」がついているメニューは、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



サブメニューについては次ページ以降を参照してください。

Boot Device Priority

Bootメニューで「Boot Device Priority」を選択し、<Enter>キーを押すと、以下の画面が表示されます。



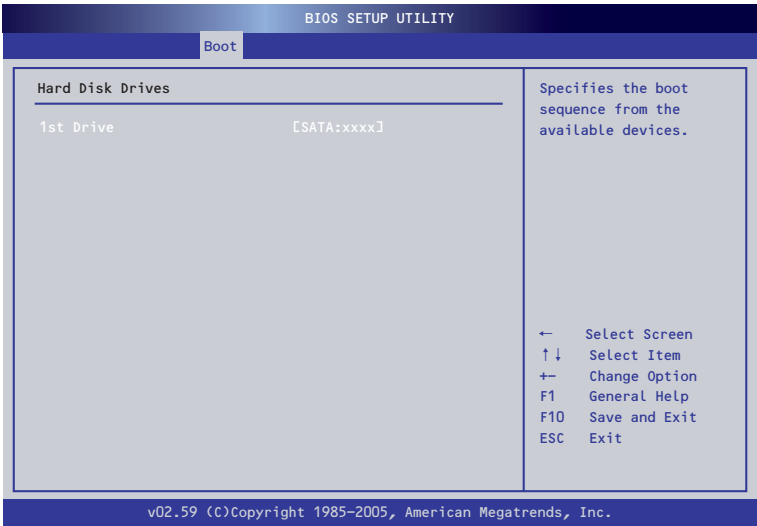
項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
1st Boot Device	[CD/DVD:xxxx] Removable Drives:xxxx SATA:xxxx Network:xxxx(*1) Disabled	1番目に起動するデバイスを表示/選択します。
2nd Boot Device	CD/DVD:xxxx [Removable Drives:xxxx] SATA:xxxx Network:xxxx(*1) Disabled	2番目に起動するデバイスを表示/選択します。
3rd Boot Device	CD/DVD:xxxx Removable Drives:xxxx [SATA:xxxx] Network:xxxx(*1) Disabled	3番目に起動するデバイスを表示/選択します。
4th Boot Device	CD/DVD:xxxx Removable Drives:xxxx SATA:xxxx [Network:xxxx](*1) Disabled	4番目に起動するデバイスを表示/選択します。
Boot from Other Device	[Yes] No	上記デバイス以外のデバイスからブートさせる場合は「Yes」を選択します。

*1 「Advanced」 → 「Advanced Chipset Setup」 → 「GbE LAN Boot」（112ページ）を「Enabled」に選択し、再起動すると「Boot Device」の[Network:IBA GE Slo]が表示されます。

Hard Disk Drives

Bootメニューで「Hard Disk Drives」を選択し、<Enter>キーを押すと、以下の画面が表示されます。



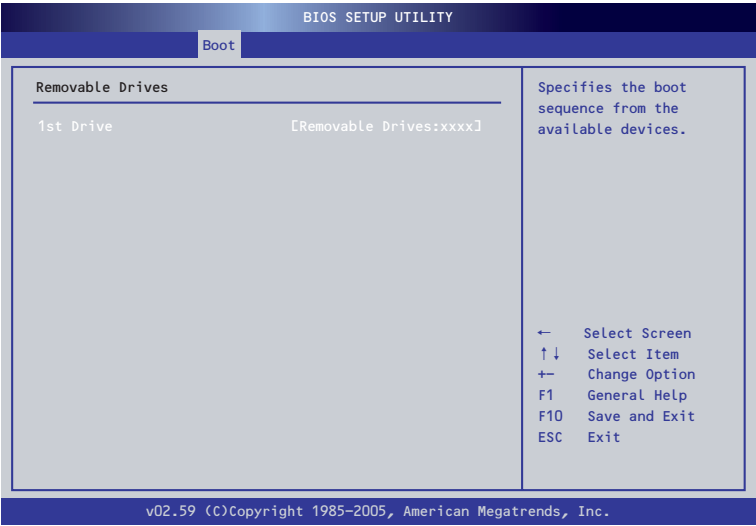
項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
1st Drive	[SATA:xxxx] Disabled	実装されているデバイスを表示します。 [Disabled]に設定するとそのデバイスを無効にします。

[]: 出荷時の設定

Removable Drives

Bootメニューで「Removable Drives」を選択し、<Enter>キーを押すと、以下の画面が表示されます。



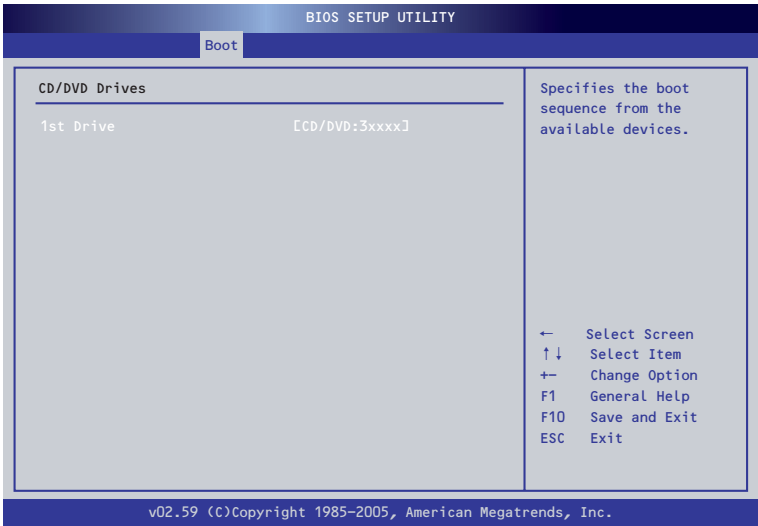
項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
1st Drive	[Removable Drives:xxxx] Disabled	実装されているデバイスを表示します。 [Disabled]に設定するとそのデバイスを無効にします。

[]: 出荷時の設定

CD/DVD Drives

Bootメニューで「CD/DVD Drives」*を選択し、<Enter>キーを押すと、以下の画面が表示されます。



項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
1st Drive	[CD/DVD:xxxx] Disabled	実装されているデバイスを表示します。 [Disabled]に設定するとそのデバイスを無効にします。

[]: 出荷時の設定

Security

カーソルを「Security」の位置に移動させると、Securityメニューが表示されます。

項目の前に「▶」がついているメニューは、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



※ 「Change Supervisor Password」でパスワードを登録したときに表示されます。

Change Supervisor Passwordで<Enter>キーを押すとパスワードの登録/変更画面が表示されます。

ここでパスワードの設定を行います。パスワードは15文字以内の英数字および記号でキーボードから直接入力します。



- 「User Password」は、「Supervisor Password」を設定していないと設定できません。
- OSのインストール前にパスワードを設定しないでください。
- パスワードを忘れてしまった場合は、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
Supervisor Password	Installed Not Installed	パスワードの設定状態を示します。
User Password	Installed Not Installed	パスワードの設定状態を示します。
Change Supervisor Password	15文字までの英数字	<Enter>キーを押すとスーパーバイザのパスワード入力画面になります。このパスワードですべてのSETUPメニューにアクセスできます。この設定は、SETUPを起動したときのパスワードの入力で「Supervisor」でログオンしたときのみ設定できます。

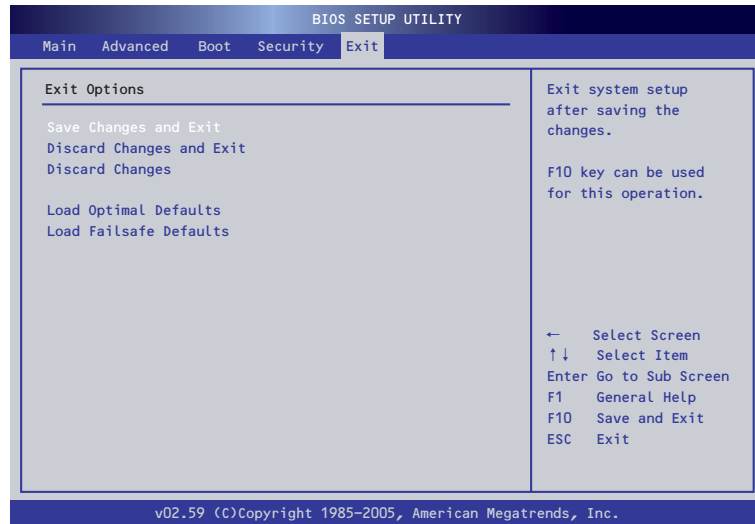
項 目	パラメータ	説 明
Change User Password*	15文字までの英数字	<Enter>キーを押すとユーザのパスワード入力画面になります。この設定は、「Supervisor Password」を設定したときのみ表示されます。
Clear User Password	—	<Enter>キーを押し、[OK]をクリックするとユーザパスワードがクリアされます。「User Password」を設定したときのみ表示されます。
Password Check*	[Setup] Always	パスワードを入力する場面を設定します。「Setup」を選択するとBIOSセットアップ起動時に、「Always」では、システム起動時とBIOSセットアップ起動時にパスワードの入力を要求します。
Boot Sector Virus Protection	[Disabled] Enabled	ハードディスクドライブの起動セクタライトプロテクト機能の有効/無効を設定します。

* 「Change Supervisor Password」でパスワードを登録したときに指定できます。

[]: 出荷時の設定

Exit

カーソルを「Exit」の位置に移動させると、Exitメニューが表示されます。



このメニューの各オプションについて以下に説明します。

- **Save Changes and Exit**

新たに選択した内容をCMOSメモリ（不揮発性メモリ）内に保存してSETUPを終わらせる時に、この項目を選択します。Save Changes and Exitを選択すると、確認の画面が表示されます。

ここで、「Ok」を選ぶと新たに選択した内容をCMOSメモリ内に保存してSETUPを終了し、システムは自動的に再起動します。

- **Discard Changes and Exit**

新たに選択した内容をCMOSメモリ内に保存しないでSETUPを終わらせたい時にこの項目を選択します。

ここで、「Ok」を選択すると、変更した内容を保存しないでSETUPを終了し、システムは自動的に再起動します。

- **Discard Changes**

今回の変更を以前の値に戻したい場合は、この項目を選択します。「Discard Changes」を選択すると確認画面が表示されます。

ここで「Ok」を選ぶと、新たに選択した内容が破棄されて、以前の内容に戻ります。「Cancel」を選ぶと現在の変更内容の状態Exitメニュー画面に戻ります。

- **Load Optimal Defaults**

SETUPのすべての値をデフォルト値に戻したい時に、この項目を選択します。Load Optimal Defaultsを選択すると、確認の画面が表示されます。

ここで、「Ok」を選択すると、デフォルト値に戻ります。「Cancel」を選択するとExitメニューの画面に戻ります。

- **Load Failsafe Defaults**

SETUPのすべての値を工場出荷時のデフォルト値に戻したい時に、この項目を選択します。Load Failsafe Defaultsを選択すると、確認の画面が表示されます。

ここで、「Ok」を選択すると、工場出荷時のデフォルト値に戻ります。「Cancel」を選択するとExitメニューの画面に戻ります。

リセットとクリア

本装置が動作しなくなったときやBIOSで設定した内容を出荷時の設定に戻すときに参照してください。

リセット

OSが起動する前に動作しなくなったときは、<Ctrl>キーと<Alt>キーを押しながら、<Delete>キーを押してください。リセットを実行します。

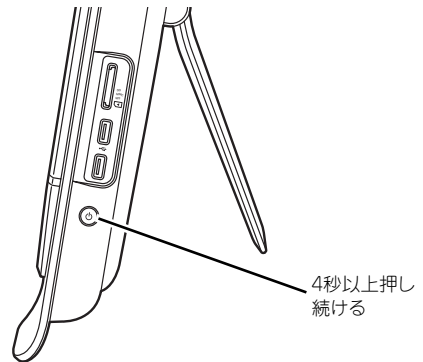


リセットは、本装置のDIMM内のメモリや処理中のデータをすべてクリアしてしまいます。ハングアップしたとき以外でリセットを行うときは、本装置がなにも処理していないことを確認してください。

強制電源OFF

オペレーティングシステムからシャットダウンできなくなったときや、POWER/SLEEPスイッチを押しても電源をOFFにできなくなったとき、リセットが機能しないときなどに使用します。

本装置のPOWER/SLEEPスイッチを4秒ほど押し続けてください。電源が強制的にOFFになります（電源を再びONにするときは、電源OFFから約10秒ほど待ってから電源をONにしてください）。



- リモートパワーオン機能を使用している場合は、一度、電源をONにし直して、OSを起動させ、正常な方法で電源をOFFにしてください。
- プロセッサが異常高温になると、高価な部品を保護するための回路が作動します。この場合、システムはリセット状態となるため、POWER/SLEEPスイッチによる電源制御ができなくなります。電源コードを抜いて電源をOFFにし、運用環境（周囲温度など）を確認した後、しばらくしてから再度、電源コードを接続し、電源をONにする必要があります。なお、プロセッサが冷却されるまでの間（通常であれば5分程度）は、電源をOFFの状態にしておく必要がある場合もあります。

